令和3年度

(2021年度)

事業報告書

社会福祉法人 北星会

【年度統括】

令和3年度、与謝の園が御下賜金を賜る栄誉に浴しました。 (平成9年には天橋園が拝受)

令和3年度は新型コロナウイルスの影響により地域ケア会議の開催が定期的に行われないなど「医療」と「介護」の連携が難しい中、法人各事業所では「利用者やその家族にとって何が最良か」を考え、感染対策の実施とその情報を発信することで、利用者だけでなく事業所間の連携を高めることを意識し、サービス提供の維持に努めました。

加えて、天橋の郷が中心となり、宮津市内近隣特養の施設長と共に宮津市長との懇談会を開催、災害時の相互協力協定を締結する、など他法人との連携を開始することができました。

職員の処遇に関しては、国の施策である処遇改善手当等の支給はもちろん、加算手当の新設や資格取得支援を行うための制度構築を計画しました。給与支給については、給与表を用いることで職員にわかりやすく、個々が自身のキャリア形成を行えるよう改定の検討を重ね、令和4年度新たな規程として施行することができました。

令和4年度も、ますます多様化する介護、福祉ニーズや地域に対し担うべき役割をしっかりとはたせるよう、継続して関係機関との連携強化、職員の処遇向上に努めてまいります。

【重点目標への取り組み】

- ① 天橋園の改修後の事業展開について検討実施
 - ・令和3年5月29日の建物引渡後、地域交流スペースの有効利用を検討しました。
 - ・宮津わかもの会議、福知山公立大学教授、宮津天橋高校教諭等に利用を案内しました。
 - ・フリーWI-Fiを設置し、利用者利便性を高めました。
 - ※コロナ禍において積極的な事業開催を行うことが難しい状況でありました。新年度も 継続して地域交流スペースの解放や有効利用をすすめます。
- ②与謝の園 移転・新築計画の検討実施
 - ・与謝野町と接続道路、埋蔵物調査、記念公園設置等の協議を重ねました。
 - ・ 与謝の園で定期的に建設準備会議を開催し、計画が職員共通目標となるよう基本設計 完成に向けた協議を重ねました。
 - ※与謝野町の旧小学校解体や埋蔵物調査の工程が遅れる状況がありますが、京都府とも 連携し、令和4年年度補助金事業として着手し、来年度秋には開設できるよう計画を 進めます。
- ③働き方改革の理念・キャリアパスに沿った職員給与体系及び諸手当の見直し
 - ・法人施設長会議を中心に新しい給与規程の策定検討をすすめ、令和4年4月より新たな規程として施行することができました。
 - ※令和4年度は、嘱託職員等の新たな給与規程策定を進めます。
- ④北星会全体の災害対策マニュアルの作成に向けて検討(感染症対策も含め)
 - ・各事業所において事業継続計画を含め、マニュアルの整備をすすめました。
 - ※令和4年度は、各事業所において地域との連携を考慮した計画やマニュアルの策定を 進めます。

- ⑤吉岡均二名誉理事長の遺贈を受け、活用方法について検討
 - ・遺贈金を原資とした職員の資格取得支援制度創設の検討をすすめ、令和4年度より運用を開始します。

令和3年度 社会福祉法人北星会

法人本部 事業報告書

【年度統括】

令和3年度は、本部職員を含めた職員異動により総務、財務、事業それぞれに課長職を設置して事務分掌の見直しを行い、法人本部各課の働きをたかめることと、各拠点の事業推進に協力できるようよう努めました。

令和4年度も事務分掌を再考し、各課、各職員の役割を明確にすることで本部機能をしっかりと発揮できるよう努めます。

【重点目標への取り組み】

- ① 天橋園の改修後の地域交流スペースの活用を含めた地域への取り組み事業の検討
 - ・宮津わかもの会議を主催してきた職員が中心となり、福知山公立大学教授や宮津天橋 高校教諭等に利用を案内しました。
 - ・フリーWI-Fiを設置しました。
 - ※令和3年度はコロナの影響により、スペース利用を積極的に推進するに至りませんで したが、地域交流の強化の為にも有効に利用仕組み作りに努めます。
- ②与謝の園 移転・新築事業への協力支援
 - ・事務局長及び事業課長が開設準備委員会に参加して、地域住民や行政、設計との折衝 や協議を行ない、定期的な職員定例会議に出席しました。
 - この計画が、与謝の園の職員にとって"自分たちの計画"となるよう注意しつつ計画推進を支援します。
 - ※世界情勢の不安定な状況が建築資材等に影響を及ぼすことが懸念されますが、京都府、 与謝野町とも情報の共有を積極的に行い、計画推進のための協議を丁寧に進めてまい ります。
- ③リクルート活動の強化(若手職員及び中途採用活動の強化)
 - ・令和3年度は、公的な制度(北京都ジョブパークとの連携等)以外に、民間の"マイナビ"の利用を開始し、5名の新卒者の入職につなげることができました。
 - ・ハローワークと協力し、定期的に個別面接会を開催する。京都府事業の即戦力養成科に講師を派遣する等が応募者数を増やすことにつながりました。
 - ・職員誰もが資格取得することを支援する。体系が分かりやすくキャリア構成しやすことを目的に給与規程の改定を行いました。
 - ※令和4年度は、退職者に引き続き勤務嘱託職員として勤務いただけるよう、嘱託職員 の処遇改善を行います。
- ④法人本部事務局の機能と役割の検討 (職員給与体系及び諸手当の見直し)
 - ・本部機能をより強化するため、年度途中で職員異動を行い、総務、財務、事業課を設置しました。

※令和4年度は、各課の働きをより強化し、各拠点の事業を支援するとともに事務量を 削減できるよう努めます。

〇 事業課

令和3年度 事業課では、以下の事業を行ってきました。

- 1. 北星会における公益的な取組事業
- 2. 与謝の園移転・新築事業
- 3. 栗田のびのび放課後児童クラブ事業
- 4. 配食サービス事業
- 5. 北星会サービス会議事業
- 6. 北星会法人研修事業

1. 北星会における公益的な取組事業

公益的な取り組みに関しては、新型コロナウイルスの影響もあり、対面での実施が困難な状況でした。天橋園の建替え時に設置した「地域交流ホール」での活動を行う為に近隣大学、高校への案内を行い、下見や見学には来ていただきましたが実際の活動には結びついておりません。Free Wi-Fi の環境整備を行いましたので、さまざまな活動を行う環境は整ったと思います。令和4年度はコロナウイルスの状況次第ではありますが、一つ一つ実績を積み上げていきたいと考えています。

2. 与謝の園移転・新築事業

週1回のペースで定例会を行い、与謝の園職員の意見や希望を反映させる形で基本設計を設計業者と協議してきました。令和3年の介護報酬改定において、個室ユニット型の定員が15人以下に緩和されました。1ユニット15名の施設は全国でも前例が少なく、新しい施設の形を考える必要があります。設計ではワンフロアーに2ユニット(30名)の利用者が生活する形をとり、生活の導線や部屋の配置を検討しました。職員配置に関しては、継続して検討をしています。

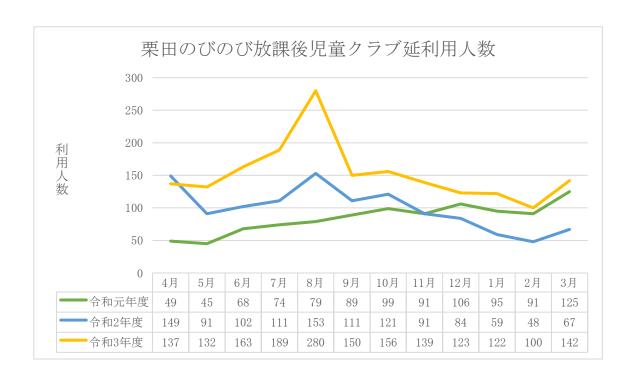
桑飼小学校跡地に建設予定ということで、地域住民にとって大変思い入れのある場所です。地域住民の方の想いを大切にした施設を計画し、誰もが立ち寄りやすい開かれた施設を目指します。

3. 栗田のびのび放課後児童クラブ事業

栗田のびのび放課後児童クラブは、宮津市の事業委託を受け、3年が経ちました。今年度、利用児童保護者にアンケートの実施を行いました。支援員が行っている取組に対して、全ての保護者から良い評価をいただきました。今後も継続して学校、保護者と連携して事業を行っていきたいと考えています。

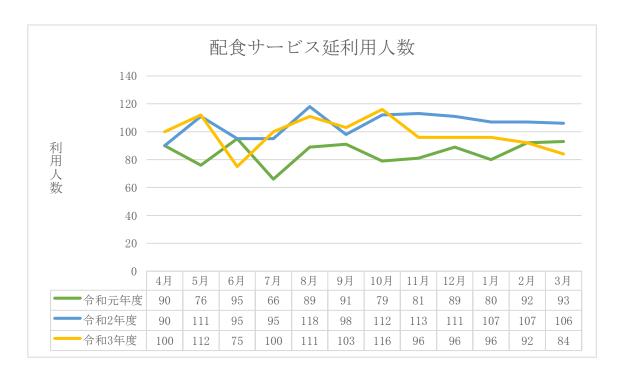
利用児童数は令和2年度と比べて延べ人数で646人増加となりました。令和3年3月31日の登録者は、通年8名で長期休みは7名増え、15名となります。 学年内訳

通年 1年生4名 2年生2名 3年生2名 長期のみ 1年生3名 2年生2名 3年生1名 6年生1名



4. 配食サービス事業

令和3年度の宮津市配食サービス事業は、令和2年度と比べて、82食減少しました。 令和4年3月31日の登録者は、栗田地区8名、由良地区8名の合計16名となります。 減少は、11月から顕著となっていますが、長年利用されていた登録者の入院が相次ぎ、 新規の利用者が増えないことが原因と考えられます。今後は、長期休み中の児童クラブの お弁当や海洋高校の寮生への配食も検討していきたいと考えております。



5. 北星会サービス会議事業

令和3年度の北星会サービス会議に関しては、デイサービス事業に関して、デイサ

ービスの ADL 維持等加算関連の BI (バーセルインデックス) 研修会を開催しました。 定期的な研修会が必要ですので、令和 4 年度も開催予定です。

6. 北星会法人研修事業

令和3年度の法人研修では、6月1日、2日にBI(バーセルインデックス)研修、11月にリスクマネジメント研修12月に身体拘束廃止研修を行いました。研修は、対面とオンライン両方で行いました。1月に予定していた感染症研修は、コロナウイルスの感染拡大を受け、対面での実施を中止しWEB上である一定期間ビデオが視聴できるビデオ研修という形をとりました。今後の研修は、どうしても対面で行う必要がある研修以外は、オンラインやオンデマンド(ビデオ研修)を組み合わせていく形が望ましいと感じます。令和4年度はオンデマンド研修の実施に向けて検討を行いたいと思います。

○財務課

令和3年度は、与謝の園移転・新築事業が実施に向けて本格化する中、資金計画等財務面において建設準備室と連携しサポートするとともに、現存施設の老朽化に伴う設備等の修繕・更新費用についても必要な措置を行いました。

資産・負債のバランスは、今後の北星会の経営に大きく影響するとともに、今後実施される特養与謝の園移転・新築事業にも関係することから、財務状況の充分な把握に努めるとともに、資産運用等も含めた提案を行っていきたいと考えます。

また日々の財務管理については、昨年度同様、各施設の経理担当者と連携を取りながら拠点間の整合性を保つことに努めました。

1. 会計処理業務等の見直し

- ・令和2年度決算の精査及び令和3年度補正予算の試算、並びに令和4年度予算統括 を行いました。
- ・現状に即した経理規程の見直し(売買、貸借、請負その他の各種契約事務)を行いました。
- ・本部と各拠点が連携した事務集中化に向けて、会計処理方法に係る経理事務マニュ アルの作成に着手し、内容について検討しました。

2. 経営分析

- ・法人全体の資産・負債・純資産額を把握し、社会福祉充実算残額の計算と共に、法人の経営状況の把握に努めました。
- ・各拠点の収支状況の把握と年度費用の見通し予測を行い、収支状況の把握に努め、 施設長会議等管理者へ情報を提供しました。

3. 情報開示

・法人ホームページ及び財務諸表等電子開示システムを通じて、令和2年度決算の状況を開示しました。

・財務諸表等電子開示システムを通じて、令和2年度社会福祉充実残額および社会福祉充実計画を開示しました。

4. 新築事業に係る資金計画

- ・ 事業計画に基づき、補助金・借入金等、必要な財源の調整(法人内資金調整等)を 行いました。
- 事業計画に基づいた事業収支スケジュールの策定を行いました。

5. 社会福祉充実計画の策定・承認・届出

・ 既存の社会福祉充実計画の終了承認に伴い、新たな充実計画の策定、理事会・評議 員会の承認後、所轄庁の承認申請を行い承認されました。

〇 総務課

令和3年度は、一元化した人事・労務・給与の安定した業務遂行と、人材確保に向けた各種就職説明会の出展・広報活動を進めてきました。

また、法人本部として各種調査や届出、補助金申請においても極力集約行い、事務 効率化を進めました。

1. 人事・採用・労務・給与関係

- ① 人事・労務・給与業務の一元化について、現状を把握し、拠点事務負担の軽減等、 今後の方向性を検討しました。
- ② 勤怠管理システム(クロノス)の活用により、年次有給休暇や時間外勤務、出退 勤等の勤怠情報を集計し、給与計算処理の効率化を図りました。
- ③ 給与明細書・賞与明細書・源泉徴収票を、電子交付(明細書をメールに添付してお知らせ)の導入を進め、職員への周知を行いました。
- ④ 社会保険の電子申請の整備により、事務手続きの効率化を図りました。
- ⑤ 給与規程改定へ向けて規程内容確認と、実施へ向けた事務処理を進めました。
- ⑥ 安全運転管理者の法改正に伴う対応の情報収集を行い、施設長会議等で提案を行い、対策に係る書類整備等を行いました。
- ⑦ 就職情報サイトへの新規掲載や京都市会場への出展を含めた就職フェアへの参加、見学、実習及びインターンシップの受け入れにより、職員採用に繋がるように取り組みました。

2. 広報活動の充実

- ① 見やすくデザイン変更した広報誌「きらめき」の発行で、地域の方や求職者に法人の魅力が伝わるように工夫し、法人の取り組みについて広く知ってもらえるように努めました。
- ② 法人が求める人材の獲得を目指し、採用のための広報活動(ホームページの管理・ 運営、フェイスブック等の SNS を活用した求人情報の PR 等)を行いました。
- ③ 北星会ホームページの見直しを進め、各拠点が情報発信を行えるよう、お知らせページや、ブログの充実に努め、法人としての取り組みページを追加し、広く発信

しました。

3. 規則規程関係の整備

- ① 職員が安心して業務を行える環境整備のための、給与規程、就業規則及び各種管理規程の改定を受け、必要な書類整備を行いました。
- ② 各拠点へ変更内容の周知を行い、規則綴りの管理を行いました。

4. 効率的な補助金請求や事務管理

- ① コロナ関係の給付金を含め補助金等の手続きなど、拠点の事務負担軽減に努めました。
- ② 新型コロナ感染症予防のための消耗備品(マスク、消毒用アルコール等)について、法人一括購入により費用を抑え備品を確保しました。

令和3年度 社会福祉法人北星会

総合在宅支援 天橋園 事業報告書

【年度統括】

令和3年1月にリニューアルオープンした「総合在宅支援天橋園」は、それまでの特別養護老人ホームを母体とした施設群から、各種在宅介護サービス事業所群として今まで以上に地域に密着したサービスへと方向転換しました。

令和3年度は新体制となった最初の年度であり、今後の天橋園関係を見通すための重要な年度でもありましたが、年度当初に掲げた目標を達成することができませんでした。

サービス事業所別の実績は、入所系サービスであるグループホーム天橋の家は入所定員の増員もあり一定の成果をあげることができましたが、その他訪問系・通所系・居宅支援サービスについては前年度実績を下回る結果となりました。

このような事業実績となった要因として、一昨年から続く新型コロナ感染状況が多少なりとも影響があったにせよ、宮津・与謝地域では都市部ほどの感染拡大状況でないことから考えると、各事業所における事業運営方法やサービス提供体制において、この時代・この地域から求められているものであるかを再検討する必要があります。

今後、質の高い介護保険事業サービスの提供と併せて、介護保険サービス以外において もこの地域におけるニーズを的確に判断し、それを実行に移すことが安定した事業運営と 地域貢献に繋がるものと考えております。

【年度目標に対する成果】

- ① 効率よくサービスが提供できるように事業展開については、デイサービスと認知症ディサービスの業務内容については可能な業務から共に進めていきます。
 - ・ 新しい建物の構造(デイサービスと認知症デイサービスのスタッフ同一フロア)を 活用し迅速な連絡体制と情報共有を行うことができました。
 - ・ それぞれの事業の効率性を目的としたサービス提供体制や職員の応援体制については、具体的な検討に入れず達成することができませんでした。
- ② 各事業においても認知症ケアについて見直し、より良質なサービスの提供や地域住民への認知症の理解と支援の広がりに努めていきます。
 - ・ 各事業所から選出されたメンバーで構成する認知症委員会を立ち上げ、認知症利 用者への対応方法など具体的な事例検討を用いて話し合うことで、サービスの向 上に繋げました。
 - ・ 委員会委員が認知症サポーター養成講座に参加をして、地域の小学校児童への出 張講座を行うことで幅広い世代への認知症理解度を高めました。
- ③ 天橋園拠点区分内においては本部業務と天橋園の事務について有効に効率良く業務が 遂行できるように順次検討し進めていきます。
 - ・ 複数の本部職員が天橋園事務業務を兼務して双方の各種会議に出席し法人本部と

の情報共有を常に行うことで業務の効率化を図りました。

・ 本部・天橋園それぞれの事務担当者が同じフロアに居ることで、緊急時等の協力体制を維持しました。

【各事業所の状況】

令和3年度は、天橋園群全職員が事業計画と予算を理解し、実績を上げるよう努力しました。しかしながらグループホームでは当初の目標を達成できた一方、通所系、訪問系、居宅支援各事業所においては目標を達成することができず厳しい結果となりました。

令和4年度は、令和3年度の実績を分析し、「各事業所で足りないのは何なのか?」を明確にし、全職員がその弱点を共有し、全力で取り組みたいと考えております。

【事業報告】

1. 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム天橋の家)

令和3年度においては、新施設開設より1年が経ち、ご利用者・職員共に徐々に生活に慣れ、落ち着いて生活できることが出来ました。

新生活に慣れていただいたことで安定した利用稼働率に繋がる一方で、体調不良や突発的な転倒事故などによる入院者の延べ入院日数は23日間、特養入所による退居者は1名と、ご利用者の環境変化により事業実績に対するマイナスの影響も若干あったように思います。新しい取り組みとしては、プランター栽培や、地域への貢献事業として小学生登下校見守り事業など計画するも、新型コロナウイルスの感染状況は完全に終息することがなく、ご家族や地域との関わりにおいて今後の課題を残す結果となりました。

令和4年度は「コロナ禍でも出来る方法=with コロナ」を基に、感染予防対策を徹底し、 ご家族や地域へ開かれた施設として、存在感のある取り組みを展開してまいります。またご 利用者の「できる力」を大切にした、機能低下予防の取り組みにも力を入れ、認知症の進行 予防に努めてまいります。

①入居者の状況

(ア) 稼働率 (定員:18名)※令和2年12月19日まで定員9名

年度	営業日数	延入居者数	平均入居者数/日	稼働率
2 年度	365 日	4,040 人	11.1人	96.1%
3年度	365 日	6,547 人	17.9 人	99.6%

(イ) 契約数

年度	新規入居者数	待機者数		
2年度	11 人	11 人		
3年度	1人	15 人		

(ウ) 地区別 新規入居者数の状況

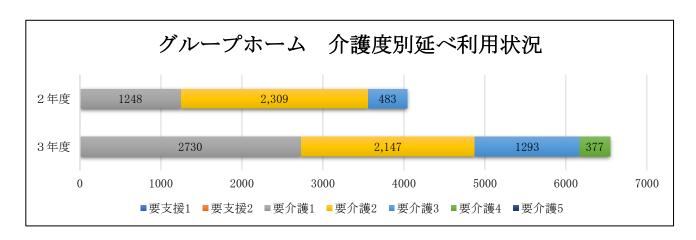
- 地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
2 年度	11 人	0 人	0 人	0 人
3 年度	1人	0人	0人	0人

(エ) 要介護度別 入居者の状況(各年度 3月現在)

介護度 性別	要介	護1	要介	·護 2	要介	·護 3	要介	護 4	要介	·護 5	合	計
年度	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
2年度	0	8	1	6	1	2	0	0	0	0	2	16
3年度	0	6	1	4	1	5	0	1	0	0	2	16
平均要介護度		三度			1.	7						
十均安川 護皮		3年	三度			1.	9					

(オ)要介護度別 (延入居者数の状況)

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5	合 計
2 年度	1,248人	2,309 人	483 人	0人	0人	4,040 人
3 年度	2,730 人	2,147 人	1,293 人	377 人	0人	6,547 人



2. 通所介護 (天橋園通所介護事業所)

令和2年度に続き新型コロナウイルス感染症対策をとりながらの営業となり、ご利用者・ ご家族にもご協力いただく中、活動や行事等をどのようにして楽しんで頂くか現在も模索し ているところです。

冬季において大雪のため営業中止(1名のみ受入れ)とさせて頂く日が1度ありましたが、 それ以外は営業開始時間を遅らせ職員複数人体制での送迎を行うなどご利用者・ご家族の要望に応えられるように努めました。更には他部署への協力など、職員それぞれが自らできることを考え、連携しながら大きな事故もなく無事に業務が遂行できました。

また、新たに加わった新任職員を指導するにあたり、業務の改善点に気付く事ができ、当たり前だと思っていたことをもう一度考え直す機会にもなりました。今後は、新しいことも取り入れて、より充実したサービスとなるよう努力していきます。

課題はまだまだたくさんありますが、まずはご利用者に「楽しい」・「また行きたい」と思って頂けるようなデイサービスを目指し、既にご利用いただいている方々の更なる利用と新規利用者の獲得に努力し稼働率の向上を目指します。

職員一人一人もそれぞれの立場で考え意識を持ち、チーム一丸となって頑張っていきたいと思います。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率 (要介護者及び要支援者)

_	年度 区分	利用定員/日	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
	2年度	25 人	309 日	6,223 人	80.6%	1.5
Ī	3年度	25 人	311 日	5,925 人	76. 2%	1. 7

(イ) 要介護度別利用者数の状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	小 計
2年度	2,267 人	1,816人	620 人	180 人	243 人	5,126人
3年度	2,254 人	1,383 人	917 人	328 人	170 人	5,052人

(ウ) 要介護度別利用者数の状況 介護予防

介護度年度	要支援 1	要支援 2	小 計
2年度	324 人	773 人	1,097人
3年度	360 人	513 人	873 人

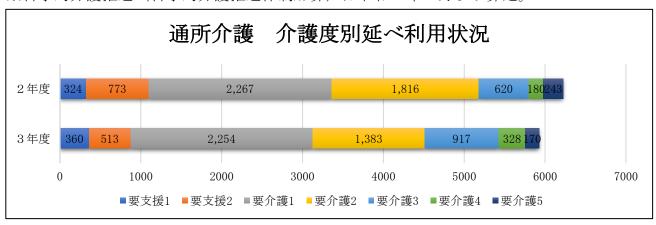
(エ)①加算算定の状況(通所)

加算項目 年度	機能訓練 I イ	機能訓練 Iロ	入浴 I	体制 I	科学的介 護推進	処遇改善 I	特定処遇 I
3年度	2, 437	2, 618	4,875	5, 052	639	703	703

②加算算定の状況(予防)

加算項目 年度	運動器	処遇改善	特定処遇	科学的介 護推進	体制 I 1	体制 I 2
3年度	159	159	159	142	87	72

※科学的介護推進(科学的介護推進体制加算)は令和3年5月より算定。



3. 認知症対応型通所介護 (ハウゼ天橋通所介護事業所)

認知症高齢者に対する地域のニーズに少しでも応えられる様に、ご利用者の認知症状の緩和とご家族の介護負担の軽減に努めました。

ご利用者に対して『買い物支援サービス』や『屋外活動支援サービス』の実施、また利用時間を融通する事でそれぞれの家庭の事情に対応した結果、ハウゼ天橋の利用を継続いただきました。

令和3年度の利用実績は、4月以降相次ぐ自宅での転倒・骨折、介護者の病気・死去、持

病の悪化等で急な利用中止が非常に多いこと、また新規利用者は多かった一方で家族の意向 や金銭面で複数回利用に繋がらないご利用者も多く、結果的に年間の1日平均は10.1人と 令和2年度を下回ることになりました。

コロナの感染拡大状況と併せて予測しにくい事態が多く厳しい実績となりましたが、今後 も在宅での暮らしを希望されるご利用者やご家族を支援し、算定可能な加算は積極的に取り 入れ、ご利用者の確保と個別サービスに取り組んでいきます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率

年度	定員	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
2年度	12 人	259 日	2,787 人	89. 7%	3. 1
3年度	12 人	259 日	2,605 人	83.8%	2. 9

(イ) 要介護度別 延べ利用者数の状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5	合 計
2年度	111 人	846 人	833 人	508 人	489 人	2,787 人
3年度	351 人	698 人	850 人	340 人	366 人	2,605 人

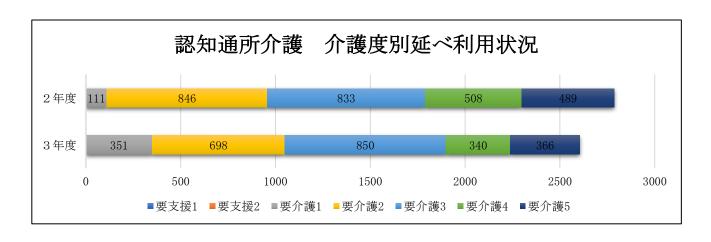
(ウ)要介護度別 延べ利用者数の状況 介護予防

介護度年度	要支援 1	要支援 2
2年度	0人	0人
3年度	0人	0人

(エ) 加算算定件数の状況

加算項目 年度	入浴 I	科学的介護推進	口腔機能 向上Ⅱ	若年性 認知症	体制 I 1	処遇改善 I	特定処遇 I	個別機能 訓練 I	
3年度	2, 245	286	8	20	2, 605	286	286	104	

※科学的介護推進(科学的介護推進体制加算)は令和3年4月より、若年性認知症(若年性認知症利用者受入加算)は令和3年11月より、口腔機能向上Ⅱ(口腔機能向上加算Ⅱ)は令和4年2月より算定。



4. 訪問介護 (天橋訪問介護事業所)

昨年度に引き続きコロナ禍での訪問介護については、その時の状況に応じて慎重かつ迅速に対応しました。特に PCR 検査を受けられた方など感染の可能性があるご利用者宅へは更なる感染予防対策を徹底した訪問を実施する一方、ご家族や担当ケアマネとサービス内容を検討しつつご家族の協力のもと必要最小限のサービス提供を行うことで事業所として感染を抑えることができました。

訪問実績については、複数回数訪問に入っていたご利用者の施設入所や長期入院により全体の訪問実績の減少が昨年度より続いています。新規訪問依頼への迅速な対応を行うことで契約人数が増加傾向にあるにもかかわらず、本人の受け入れが難しく訪問が開始できないまま中止になるケースもあり、厳しい現状を打破するためにも求められるサービスにどう応えていくかが課題となっています。

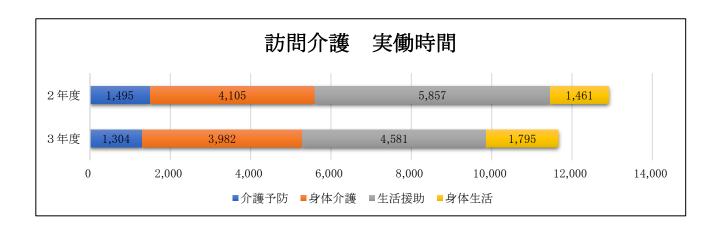
看取りの方への訪問は短期間となりますが、最期まで自宅で過ごしていただけるよう積極的に関わってきました。

職員の資質向上については、毎月の例会と勉強会で動画を利用するなど今までとは違う形でできるだけ中止せず行うことができました。

厳しい状況が続く中、今後もご利用者が少しでも長く在宅での生活が継続できるよう、ご 家族、ケアマネ、他事業所と連携を取りながら求められるサービスの提供に取り組んでいき ます。

(ア)介護度別利用者数の状況及び実働時間

	r	介護予防	サービス		介護	サー	ビス		障害者	Λ -1
	年度	要支援	要支援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	支援	合 計
契約人	2年度	12 人	20 人	44 人	41 人	42 人	16人	11人	0人	186 人
数(人)	3年度	11人	21 人	49 人	36 人	35 人	27 人	19 人	0人	198 人
介護予	2年度			1,	495 時間	45 分	ì			12%
防(h)	3年度			1,	304 時間	00 分	ì			11%
身体介	2年度		4, 105 時間 30 分						32%	
護(h)	3年度			3,	982 時間	00 分	ì			34%
生活援	2年度			5,	857 時間	15 分	?			45%
助(h)	3年度			4,	581 時間	30 分	ì			39%
身体生	2年度		1,461 時間 0分							11%
活(h)	3年度		1,795 時間 30 分							16%
A =1	2年度			12,	919 時間	30 分	ì			100%
合 計	3年度			11,	663 時間	00 分	ì			100%



5. 天橋園居宅介護支援事業所

介護や支援の必要なご利用者やご家族が望まれる場所や生活が安心して継続できるよう、 主治医をはじめ地域包括支援センターや関係機関と連携を密にしながら、介護保険サービス や社会資源等の調整を行いながら支援しました。

コロナ禍が続く中、事業所での利用者との面会の自粛や禁止、地域の感染状況に応じたサービス担当者会議の開催方法や自宅への訪問時間の短縮など、十分なアセスメントやモニタリングができない状況が続く中、適切なケアマネジメントが提供できるよう事業所内での更なる情報共有と理解・確認を徹底しました。

ケアプラン作成や給付管理の実績は、新規利用者を積極的に受ける一方で身体状態の悪化による転院や入所の希望、要介護認定が3以上となったことによる施設入所希望、また急変により亡くなられることなどで事業所を離れるご利用者や担当期間が短くなるご利用者もあり、令和3年度において管理延人数の大きな増加とはなりませんでした。

令和4年度よりケアマネジャーが1名増員され6名体制になります。ご利用者やご家族に安心して相談していただけるケアマネジャーになれるように、事業所としましても努力してまいります。

6名のケアマネジャー全員が研修や地域ケア会議、宮津市介護支援専門員研究会、法人内での居宅会議などに積極的に参加し、専門職として資質の向上を図り、親切丁寧な相談を行いご本人やご家族に信頼される事業所となるよう努めてまいります。

カフェが再開されましたら感染症予防対策をしっかり行い、地域とのつながりを大切にしていきます。研修会や地域ケア会議も積極的に参加し、医療や行政、関係機関と連携を密に行い、ケアマネの資質向上を図るとともに、親切丁寧な相談援助に今後も努めて参ります。 ①利用実績

(ア) 内容別相談件数

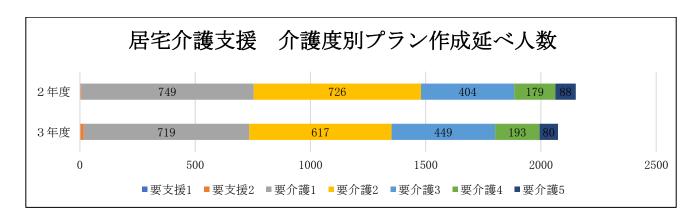
内容 年度		介護保険そ の他福祉サ ービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
2年度	実数	252 件	11 件	0 件	120 件	383 件
2 平度	延数	10,709件	80 件	0 件	5,226 件	16,015 件
3年度	実数	250 件	18 件	0 件	72 件	340 件
3 平度	延数	10,508件	98 件	0 件	4,434件	15,040 件

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
2年度	2,151件	231 件
3年度	2,074件	233 件

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
2年度	0人	5 人	749 人	726 人	404 人	179 人	88 人	2,151 人
3年度	2 人	14 人	719 人	617 人	449 人	193 人	80 人	2,074 人



6. 事務

各事業所の毎月の収支状況の把握に努め、諸費用の按分負担の見直しを行いました。 また事務手続きにおいて、法人本部との連携により、効率良くスムーズに遂行できるよ うに努めました。

【おむつ等販売】

項目 年度	販売数(パック)
2年度	1, 220
3年度	1, 257

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月9日	50 人	年1回
腰痛健診	9月9日・2月25日	36 人・48 人	半年に1回
深夜業務従事者健診	2月25日	12 人	年1回
ストレスチェック	9月	34 人	年1回

【職員研修参加状況】

① 施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
食事から考える健康について	30人	丹後保健所出前講座を利用し、働き盛り世代
(コロナ・女性特有健康課題)		の健康づくりについて学ぶ。
安全衛生委員会研修会		
感染症予防対策研修会	6人	高齢者施設における感染対策
排泄ケア研修	6人	排せつケアに係る研修
感染症予防研修	5人	法人研修 動画視聴
身体拘束について (WEB 研修)	1人	法人研修
		外部講師(リブドゥ)

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
介護支援専門員実務経験者更新研修	1人	介護支援専門員資格継続の更新研修
課程Ⅱ		
主任介護支援専門員更新研修	2人	主任介護支援専門員資格継続の更新研修
サービス提供責任者研修	1人	サービス提供責任者の役割と位置づけ
宮津市介護支援専門員研究会	4人	市内事業所職員の事例検討および情報交換
宮津市地域ケア会議	3人	生活支援体制整備事業等について
福祉サービス苦情解決事業セミナー	3人	福祉サービスにおける苦情解決
感染予防対策研修会	1人	福祉施設等における感染症対策
安全運転管理者講習会	1人	施設の安全運転管理
宮津市高齢者等虐待防止ネットワー	5人	施設事業者による高齢者虐待の予防の対応
ク研修会		
聞こえのサポーター養成講座	1人	聞こえや手話に関する基礎知識に係る研修会
新たなケアプラン標準様式の活用方	5人	ケアマネジメントスキルアップ研修
法を学ぶ		ZOOM 開催
主任ケアマネフォローアップ研修	1人	主任ケアマネジャー研修
食品衛生責任者養成講習会	1人	食品衛生に係る研修会
京都府認知症介護実践者等養成研修	1人	認知症介護の管理者研修
(管理者研修)		
京都府認知症介護実践リーダー研修	2人	認知症介護のリーダー研修
京都府認知症介護実践者研修	2人	認知症介護の実践者研修

新型コロナウイルス感染拡大防止策として、集合形式の研修会等は中止となりました

(地域事業・総合事業)

事業名	参加者数
宮津小学校認知症サポーター養成講座 11 月 11 日	3 人

【介護実習等受入状況】 受入れ実績なし

【ボランティア活動状況】 活動実績なし

【各種会議開催状況】

会 議 名	開催回数/年
業務運営会議	12回
認知症委員会	4回
虐待及び苦情対策委員会	10回
安全衛生・感染症委員会	12回
ヘルパー例会	12回
運営推進会議	6 回
排泄褥瘡委員会会議録	5回

令和3年度 社会福祉法人北星会

与謝の園 事業報告書

【年度統括】

令和3年度は昨年に引き続き新型コロナ感染症防止予防対策と事業継続に努めた1年でした。新型コロナ予防対策については、ガウンテクニックと発生時の対応についての訓練に加え、感染症発生を想定とし、具体的な各役割の動きを確認しいざという時に躊躇することなく対応できる研修を実施しました。施設行事については、2年度に引き続き利用者と職員のみで小規模な形でとなりましたがコロナ禍だからこその視点でこれまでとは違う内容を企画し楽しんでもらえたことが良い経験となりました。

特養部門では、ベッド稼働率上げるために、空床を減らすよう努めましたが、年末ごろからの入院者が増加したことと、看取りによる死亡が増えたことで例年並みとなりました。

在宅部門では、特に通所介護の利用者が増加しました。桑飼シルクカフェを利用されていた方の利用が増えています。コロナ禍でふれあいサロン、認知症カフェの開催が中止される中、心身機能、精神面などの健康状態の維持を目的とした利用が増加しています。

利用者やその家族の思いに応えられるよう、より良いサービスの提供に努めていきます。

特別養護老人ホーム与謝の園は令和5年度の新設移転に向けて、公園の整備、忠魂碑移設等について行政、遺族会、惜別の会及び地域住民の代表者と協議を進めてきました。令和3年12月には住民説明会を開催し、住民の皆さんに建物概要、コンセプトについて説明しました。住民の皆さんからはたくさんのご要望を聞かせていただきました。寄せられたご要望に対して真摯に向き合い応えていけるよう進めていきます。

各部署主任を中心に有志で建て替えに関する委員会では入居者をはじめ地域に暮らす皆さんに「住み慣れた場所・家で暮らし続けることができる。」という安心感と誰もが気軽に利用いただける施設と働きやすい職場づくりについて検討していきます。

2021 年度介護報酬改定で、個室ユニット型施設の定員を1ユニット15人以下に緩和された(2021年4月以降に整備されるものに限定)ことから、新しい与謝の園は1ユニット15人として基本設計を協議しています。全国的にも前例がほとんどない施設を造ることになり、従来型の多床室の経験を生かした新しいユニット型特養を職員一丸となって取り組んでいきます。

【事業報告】

- 1. 特別養護老人ホーム
- ①入居利用者の状況
 - (ア) 稼働率 (入居定員:80名)

年度	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
2 年度	365 日	28,664 人	536 床	78.4人	98. 2%
3年度	365 日	28,531 人	669 床	78.2人	97. 7%

(イ) 契約数 (3月31日時点)

年度 区分	新規入居者	申し込み者	退園者	施設内死亡	施設看取り	施設外死亡	施設移転	帰宅
2 年度	22 人	115 人	20 人	3 人	13 人	2 人	2 人	0人
3 年度	14 人	93 人	17 人	3 人	13 人	1人	0人	0人

(ウ) 地区別 入居状況 (3月31日時点)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
2 年度	3 人	76 人	1人	0人	80 人
3年度	3 人	74 人	0人	0人	77 人

(エ) 年齢・性別 入居状況 (3月31日時点)

年齢性別	60~	64	65~	-69	70~	~79	80~	-89	90	~99)0 上		合計	ŀ
区分	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
2年度	0	0	0	0	4	3	2	18	2	42	0	9	8	72	80
3 年度	0	0	0	0	3	2	2	17	3	40	0	10	8	69	77
亚拉左脸	2年	度	男	性	81.	1歳	女	性	92.	3歳	合	計		91.2 点	裁
平均年齢	3 年	度	男	性	83	歳	女性		93 歳		合計		91.6歳		裁

(才) 入居期間別 入居状 (3月31日時点)

期間区分	間 6か月未満		6 かり 1 年	月 以 上 未 満		以 未 満		以上未満	10 年	以上		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
2 年度	2	9	2	6	2	31	2	22	0	4	8	72	80
3 年度	0	7	1	6	4	28	3	25	0	3	8	69	77
₩ 1 ₽ #	188		2 年度		3.3 か月								
半均八店熟	平均入居期間 3年		3 年度			3. 3	3 か月						

(カ) 入居期間別 延べ入居状況 (特養)

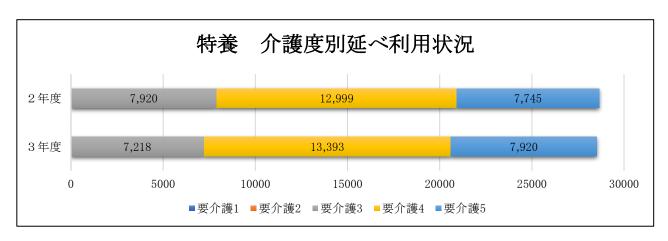
期間性別	6 か月	未満	6 か月以上	:1 年未満	1年以上	3 年未満	
年度	男	女	男	女	男	女	
2年度	2 人	9人	2人	9人	5人	34 人	
3 年度	1人	4 人	2 人	10 人	3 人	21 人	
期間	3 年以上 10 年未満		10 年	以上	1	4	
性別	3 平以上	10 平水個	10 +	· <u>M</u>	P	1	Λ ∌ Ι.
性別 年度	男	女	男	女	男	女	合 計
							合 計 98人

(キ)介護度別 入居状況(3月31日時点)

介護度性別	要介	護1	要介	護 2	要介	護 3	要介	護 4	要介	·護 5	合	計
区分	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
2年度	0	0	0	0	1	23	5	30	2	18	8	71
3年度	0	0	0	0	2	14	5	32	1	23	8	69
平均要介護度		2年度						3.94				
半均安川 護及	3 年度							4. 10				

(ク)介護度別 延入居状況

<u></u> 区	介護度 分	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5	合 訁	計
	2年度	0人	0人	7,920 人	12,999 人	7,745 人	28, 664	人
	3年度	0人	0人	7,218 人	13,393 人	7,920 人	28, 531	人



○介護部

ご利用者の認知症の重度及び認知症対応への専門性が求められてきています。またニーズも多様化しており、リスクへの対応・情報の共有化・きめ細やかな個々に合わせた対応がますます重要となっています。新型コロナ感染予防のため、ご利用者や介護員自身の健康管理に努めることと共に、職員のストレス緩和、安心してチャレンジできる、自ら発言ができる環境作りが必要であると感じます。

ユニットではご利用者が「自分らしく」暮らしを継続していくために、一人ひとりのご利用者に寄り添い、個別ケアの提供に努めることを目標に取り組みました。

- ①各ユニットでは、ユニットごとに具体的な目標を挙げ、ユニット会議時や日々の意見交換をもとに、ご利用者の日々変わる状態把握を行い、一人ひとりのご利用者に添ったケアが実践できるように、ユニット職員間での情報の共有化に努めました。また、ユニット目標を達成するためには、どうすれば取り組めるか、取り組めているのかなどの検討や評価もその都度行いました。
- ②ご利用者との関わりを通し、入浴・排泄・食事形態・口腔ケア、ポジショニング、シーティングの見直しをはじめ、個々の意向に添ったレクレーション活動を実施しました。 誕生日には、「その人らしさ」「自分らしさ」「信頼感」を大切にするため事前に聞いて おいた好きなおやつを提供し職員や他のご利用者と共にお祝いをしました。
- ③新型コロナウイルス感染拡大予防のため、少人数での行事・レク等を検討し、感染予防

しながら少しでもご利用者が楽しんでもらえるような内容を考えました。また、対面面会ができる時期があり、ご家族と会える利用者の表情を見て、対面面会の大切さを痛感しました。前年度に引き続き、一人ひとりの様子を書き留めたお便りを何度かご家族に送付し繋がりを大切にしました。

- ④サービスの質の向上のため、各種委員会活動、部会活動をはじめ、委員会主催の施設内研修、施設外研修に参加しました。介護員の認知症ケアについての悩みや対応方法について考えていきました。ユニット会議において、職員が、勉強したい内容を計画し、講師となり進め、伝え、考えるなどの勉強会を実施しました。介護技術においては、基本的な技術の再確認として、「陰部洗浄の仕方」「エアーマットの使い方」、そして今回、職員の過失による大きな介護事故について、自分の介助方法の振り返り、実際に体験する事故の検証についても取り組み、職員の過失による事故が二度と無いように研修を実施しました。
- ⑤ユニット型特養への建て替えに向けて、介護員として建て替えについて、ソフト面、ハード面の検討、意識の改革を勉強会・意見交換を通して取り組みました。昨年度取り組んでみたユニット配膳の反省をふまえ、今年度は、個別対応を意識しながら盛り付けを実施し、再度ユニットらしさを考えました。また、個別ケアを行う上で、職員の観察力・発信力・行動力を養う為に「職員の良い所見つけ」を実施しました。
- ⑥看取りケアに力を入れる為に、「看取り」についての理解を深め、職員間の意識の統一を図る事に努め、ユニット内でその人らしい看取りケアの充実を図りました。亡くなった後に各ユニット会議内でデスカンファレンスをし、次の看取りケアに繋げていきました。

○相談部

- ①新型コロナウイルス流行がボランティアの受け入れ地域やご家族のつながりに影響しました。ご利用者や施設との関係維持のための方策について、次年度も引き続き改善に取り組んでいきます。
- ②待機者について、宮津市、伊根町からの待機者は宮津市の特養受け入れが進んでいるため前年度より若干少なくなっています。介護度別にみても要介護3の占める割合が多く介護度の高い方の待機は減っています。
- ③退去者数は昨年と大きく変わりませんが、施設内看取りに取り組んだ結果、加算の算定者数は安定しています。
- ④長期入所者の退去者に大きな変化はありませんが、家族の希望による入院の長期化、コロナウイルスによる入退所のタイミングなどの要件が重なりベッドの回転率に影響しました。

(ア) 相談件数

年度	入所相談	在園者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合 計
2年度	116 件	240 件	64 件	2 件	0 件	422 件
3 年度	99 件	221 件	36 件	1 件	0 件	357 件

(イ) 待機者数(地区別)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合 計
2 年度	22 人	72 人	7人	11人	112 人
3年度	16 人	71 人	3 人	2 人	92 人

(ウ) 待機者数(介護度別)

介護度 年度	要支援·他	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護4	要介護 5	合 計
2 年度	0人	0人	0 人	52 人	41 人	48 人	112 人
3 年度	1人	0人	0人	47 人	22 人	22 人	92 人

(工)退去状況 (特養)

年度区分	退去先	自宅•家族宅	園内で死去	医療機関で死去	看取りによる死亡	その他 医療機関(入院)等	合計
2 年度	人数	0 件	2 件	3 件	13 件	2 件	20 件
2 平度	比率	0%	10%	15%	65%	10%	100%
3 年度	人数	0 件	3 件	1件	13 件	0 件	17 件
3 牛烧	比率	0%	18%	6%	76%	0%	100%

○給食部

- ・新型コロナウイルス感染が長引く中で、外出の制限、行事の縮小、家族との面会の制限など楽しみが少なくなる中でご利用者の楽しみの一つになる様、試行錯誤しながら日々の食事提供に努めました。外出の機会がほとんどない中で四季を感じられる食事提供に努めました。
- ・新型コロナウイルス対策として、備蓄の充実、緊急時の対応について検討しいざという 時にはスムーズに動けるよう準備を進めました。この点についてはまだまだ不十分な事 も多いため次年度も引き続き取り組みます。
- ・建て替えを見据え、様々な食事提供方法を学び、実際に取り組んでみる事で多くの知識 を得る事が出来、今後の建て替えに活かしていきます。
- ・看取りケアとしては厨房職員も「看取り」について学び、看取りとなったご利用者の今までの生活を知り希望を伝える事が出来なくなっても、最期まで口から食べる喜びを感じてもらえるような食事提供ができるよう他部署協働で取り組んできました。
- ・「栄養ケア」に基づき、糖尿食・減塩食など特別食の提供や、利用者一人一人の状態や体調・嗜好に応じた個別的な食事提供にも引き続き力を注いできました。通所介護・短期入所者においても、健康状態や嗜好などに応じた個別対応をはじめ、ご利用者が楽しく食事ができ、なお且つ栄養改善が図れるよう努めました。
- ・その他「安心・安全な食事提供」を前提に、施設内や厨房内の衛生管理・職員の体調管理を徹底し、食中毒や感染症などの発生予防に努めました。

①提供実績

(ア) 延食数

年度 区分	特養	短期入所	通所	合計
2 年度	85,641 食	6,822 食	5,967 食	98, 430 食
3年度	83,732 食	7,883食	6,384 食	97,999 食

(イ) 栄養基準(1日あたり)

項目区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μgRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基準	1300~ 1500	60	600	30	10	550	0.8	1.0	80
2 年度	1418	56. 3	470	33. 6	6.6	703	0.66	1. 47	68
3年度	1416	56. 0	470	33.8	7. 0	757	0.64	1. 39	70

(ウ) 食品群別摂取量(1人1日当たり食糧構成)

		\
(単位	•	g)
(•	81

		1 ;	群		2		₹	详			3	#	詳		2	4 群	4
群業	頁	牛	別	魚	獣	豆	大	味	堅	緑	淡	果	芋	海			油
	\	乳乳製		介	鳥肉		豆製		果	黄色野	色野	実		藻	米	麦	
区 分		品品	類	類	類	類	品	噌	類	菜	菜	類	類	類			脂
基準		180	50	60	40		40	10	1	100	150	80	100	7	120	70	7
今年度平	均	183	29	55	42		54		0.7	88	158	56	38	3.0	122	77	3.8

*味噌は豆類・大豆製品に含みます。

○看護部

全国的にコロナウイルス感染が拡がる中、今年度も感染症対策には力を入れてきました。 面会中止、行事の規模の縮小や中止、日頃の手洗い・手指消毒・環境の消毒の徹底、コロナワクチン3回接種等、施設内にコロナウイルスを持ち込まないよう全力で取り組み、感染者が出ることなく経過することができました。まだまだ油断できない状況ですので、今後も引き続き予防対策を講じていきます。今年度も看護職員担当制を敷き、コロナ禍で面会のできないご家族に対し、こまめに情報提供を行い信頼関係の構築に努めました。その関わりの中で、家族のニーズを理解し、それに沿った生活を送っていただけるように努力しました。医療を望まれる方や、看取りを希望される方様々なケースに寄り添いました。

今年度も、病院への受診の際の待ち時間や移動の負担、外出することによる感染のリスクを考慮し、皮膚科や歯科の先生に往診をお願いして、ご利用者がいつもの環境で負担なく診療を受けてもらえるよう工夫しました。また、地域に向けては、シルクカフェにおいて感染症予防についての情報を発信する機会をもつことができました。来年度も引き続き、利用者・家族が安心して生活できるよう支援していきます。

2. 短期入所介護事業所

今年度も、①新型コロナウイルスによるショートステイ 10 床および長期空床利用におけるベッドコントロールの制約、②前年度から引き続く新規契約者数の伸び悩み、③既存のご利用者の施設への長期入所、④骨折等による突然の入院から在宅復帰困難と判断され

転院し長期入所を待つ、といった状況から、前年度よりもさらに総契約者数・ベッド稼働率が減少しました。また、要介護3~要介護5の利用者数が減少し(特に要介護3の利用者の減少が大きい)、要介護2の利用者が増加、平均介護度も前年度の2.9から今年度は2.7に下がっている状況です。②の新規契約者数については、年度後半から新規利用の依頼が多く続き、契約者数が増加しつつあり、来年度はご利用者数・利用日数が回復するものと見ています。

ここ複数年の目標としてきた看取り期にあるご利用者も引き続き受け入れすることができました。他には、措置によるショートステイを受け入れ、関係機関等との連携により安全な環境へ繋げることもできました。ご利用者のさまざまなケースに対し「柔軟に」対応していきたいと考えていますが、「柔軟さ」が問われるものとして、受け入れの可否やその日数だけでなく、その利用者の何を解決すれば在宅生活を継続することができ、解決させるために事業所としてどの部分の役割を担うのかということを明確にし、目標に向かって「柔軟に」対応できるようにしていきたいと思っています。

①利用者の状況

(ア) 稼働率(定員:10名)

年度 区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
2年度	365 日	3,172 人	8.7人	86.9%
3年度	365 日	3, 151 人	8.6人	86.3%

(イ) 契約数

年度	新規入所者
2 年度	19 人
3年度	30 人

(ウ) 地区別 入所状況

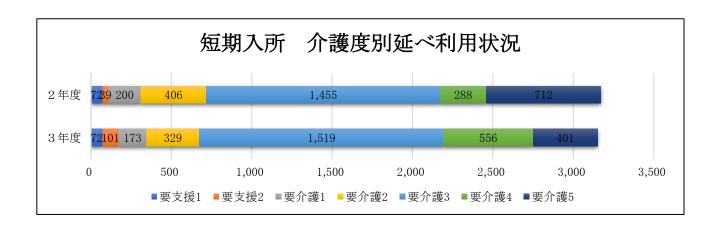
	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
2 年度	0人	67 人	0人	1人
3年度	0人	60 人	0人	1人

(工)介護度別 入所状況

介護度	要支	援1	要支	援 2	要介	護 1	要介	護 2	要介	護 3	要介	護 4	要介	護 5	合	計
性別 年度	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
2 年度	1	1	0	1	1	8	4	11	8	26	2	8	4	7	20	62
3年度	1	0	0	1	2	8	7	12	3	20	0	7	3	4	15	51
亚均两企業度		2 年	三度			2.	9									
平均要介護度		3 年	三度			2.	7									

(才)介護度別 延入所状況

介護度 年度	要支援1	要支援2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
2 年度	72 人	39 人	200 人	406 人	1,455人	288 人	712 人	3,172人
3 年度	72 人	101人	173 人	329 人	1,519人	556 人	401 人	3,151人



3. 通所介護事業所

職員一人一人が自己管理を行い、新型コロナウイルスを持ち込まないようにと私生活でも注意を払い過ごした1年間でした。新型コロナウイルスの対策を行い、ご利用者・ご家族からも理解を得ながら、ご利用者のニーズやご家族の意向を可能な限り尊重し、各居宅介護支援事業所等との連携のもと、ご利用者からの要望などを取り入れた満足度の高いサービスの提供に努めました。

令和3年度は、施設への長期入所や入院、亡くなられた方も多く、ご利用者の減少もありましたが、包括支援センターや各居宅介護事業所と連携し、要支援者・要介護者共に多くの新規ご利用者の受け入れを行うことが出来ました。しかし、現状としては要支援や要介護1、2といった軽度ご利用者が増え、重度のご利用者は減ってきています。その中で、5月からはバーセルインデックスシート(以降:BIシート)の作成、科学的介護推進に関する評価シートの作成等を行い科学的介護推進体制加算の算定し、また、定期的なBIシートの作成によりADL維持等加算の算定も視野に入れた取り組みを行いました。

令和3年度は年間延べご利用人数(前年実績比:197名増の6,318名)1日平均利用率(84.9%)も、令和2年度実績を上回ることができました。今後も引き続き、建て替え後のサービス提供方法等も考えながら業務の見直し・改善を図り、与謝の園通所介護事業所としての特色を出しつつ、ご利用者のニーズに応じたサービスが提供できるように努めます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率 (要介護者及び要支援者)

年度 区分	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
2年度	24 人	310 日	6,121 人	82.3%	2.0
3年度	24 人	310 目	6,318人	84.9%	2.0

※積雪のため、1日休業したことにより営業日が311日から310日になっています。

(イ)介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5	合 計
2年度	1,631 人	1,452 人	1,371人	146 人	431 人	5,031 人
3年度	2,158人	1,602 人	1,276人	181 人	235 人	5,452 人

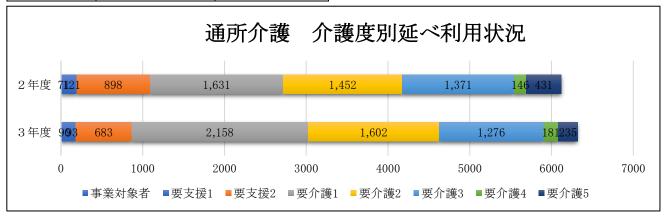
(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援1	要支援 2	事業対象者	合 計
2年度	121 人	898 人	71 人	1,090人
3年度	93 人	683 人	90 人	866 人

(エ) 加算の状況

加算項目回数	送迎減算	入浴介助加算	サービス提供体制加	処遇改善加算 I	特定処遇改善加算I
金額			算 I 1	(介護)	(介護)
算定回数(回)	263	4, 875	5, 597	909	909

加算項目回数	R3.9/30 までの上	科学的介護推進体制
金額	乗せ加算 (介護)	加算 (介護)
算定回数(回)	450	833



4. 訪問介護事業所

令和3年度は援助内容別に見ると、排泄介助での訪問が減ってきています。その半面、ご家族が遠方でなかなか帰省出来ず1人で生活されている方が増え、掃除や買い物代行等の生活全般を支える援助が多くなっています。次に少しの声かけや軽介助を行なって見守りをしながら生活を支える。身体生活が急増しています。すべてを援助するのではなく、出来ない事に対し援助を行なう事で引き続き残存機能の維持・向上に努めていきたいと思います。

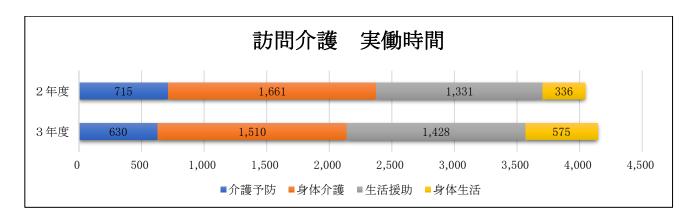
新型コロナウイルス流行が収まることなくヘルパー一人ひとりが感染しない、持ち込まないように流行期前にフェイスシールドを再開しご利用者と職員お互いを守る為の行動に努めました。

介護度別利用状況及び実働時間数

≪与謝の園訪問介護≫

		介護予防	サービス		介護	サー	ビス		障害者	
	年度	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護 4	要介護 5	支援	合 計
契約人数	2 年度	2 人	10 人	9人	15 人	15 人	6人	9人		66 人
(人)	3年度	3 人	7人	11 人	15 人	9人	10 人	11 人		66 人

介護予防	2年度	715. 時間	45 分	18%
(h)	3年度	630 時間	20 分	15%
身体介護	2年度	1661 時間	25 分	41%
(h)	3年度	1510 時間	15分	36%
生活援助	2年度	1331 時間	05分	33%
(h)	3年度	1428 時間	50分	35%
身体生活	2年度	336. 時間	25分	8%
(h)	3年度	575 時間	40分	14%
合 計	2年度	4044 時間	50分	100%
合 計	3年度	4145 時間	05分	100%



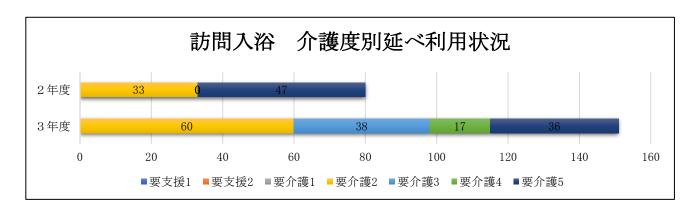
5. 訪問入浴

- ・ご利用者や家族の思いに寄り添い、希望に添った入浴サービスが提供できました。
- ・令和3年度は実施日数、契約者数、利用者数など全体的に増加しています。 その理由として、新規ご利用者の受け入れや柔軟な対応ができた事と考えます。
- ・重度のご利用者も多く医療的処置(在宅酸素・胃瘻・尿バルーン・褥瘡処置など)を 有していても入浴していただけました。
- ・感染症対策として、使い捨てエプロン・ロング手袋を使用しご利用者に触れる備品や 器具等はサービスの提供毎に洗浄・消毒を行っています。
- ・質の向上に努め、月一回の研修会を開催できました。(書面開催も含め)
- ・車両が老朽化していますがメンテナンス・稼働毎の点検を行い不備がないか確認しま した。

①利用状況

年度 区分	契約者数	営業日数	延利用数	平均稼働率	平均介護度
2年度	4 人	104 日	79名	0.8	4. 0
3年度	15 人	104 日	151名	1.7	3.3

	介護予防サービス			介 護 サ ー ビ ス					
		要支援1	要支援 2	要介護1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5	合 計
介護度別	2年度	0人	0人	0人	2 人	0人	0人	2 人	4 人
利用者数	3年度	0人	0人	0人	3 人	4 人	3 人	5 人	15 人
介護度別延	2年度	0人	0人	0人	33 人	0人	0人	47 人	79 人
べ利用者数	3年度	0人	0人	0人	60 人	38 人	17 人	36 人	151 人



6. 居宅介護支援

相談件数、ケアプラン作成件数ともに少し増えて、給付管理件数は月当たり 135~145件、年間を通しての平均は 140件でした。利用者の状態や介護者の状況の変化にともない、自宅での生活が困難になり、入院や施設入所に至るケースが多くありました。

今年度も前年度同様、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を行いました。手指や事業所内、車両の消毒、マスクやフェイスシールドの装着などの基本的な行動に加えて、利用者の健康状態を把握し、地域や近隣の発生状況を確認して、対応策についての情報収集を行いました。あらかじめ電話で体調やサービス利用状況を聞き取っておくことで、自宅訪問や担当者会議の開催等の時間短縮に努めました。利用者の入退院の際、面会やカンファレンス等直接会って相談することができなかったため、電話やオンラインでのカンファレンス等で家族や連携室と相談調整を行いました。

地域との連携においては、地域ケア会議やケアマネ連絡会、各種研修等に積極的に参加し地域包括支援センターや医療福祉の関係機関と顔の見える関係作りを心がけました。シルクカフェは、コロナ禍のために開催中止や時間短縮・感染防止対策を考慮した上での開催となりましたが、地域の皆さんと交流して、楽しいひとときを過ごすことができました。

次年度も引き続き、与謝野町地域の高齢者やその介護者が、住み慣れた地域や家庭で安心して生活が継続できるよう、迅速で丁寧な支援を行っていきたいと思います。

(ア) 内容別相談件数

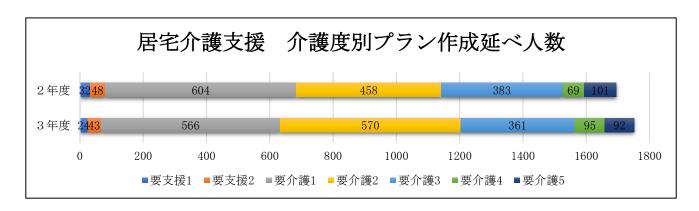
年度	内容	介護保険その他福祉 サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
2年度	実数	192 件	1件	2件	20 件	215 件
	延数	11,854件	1件	2 件	41 件	11,898件
3年度	実数	202 件	2件	1 件	20 件	225 件
	延数	12,836 件	9件	1件	42 件	12,888 件

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
2 年度	1,695件	187 件
3年度	1,751件	196 件

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5	合計
2 年度	32 人	48 人	604 人	458 人	383 人	69 人	101 人	1,695人
3 年度	24 人	43 人	566 人	570 人	361 人	95 人	92 人	1,751人



7. 与謝の園診療所

【入居者の診療状況及び健康診断等実施状況】

①診療状況

(ア) 与謝の園

年度	科目	内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
2 年度	実数	101人	0人	0人	0人	0人	0人	0 人	0人
	延数	3719 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
3 年度	実数	94 人	0人	0人	0人	0人	0人	0 人	0人
	延数	3920 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0件

(イ) 他の医療機関 通院

年度	科目	内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
2 年度	実数	14 人	13 人	3 人	4 人	1人	17 人	8 人	3 人
	延数	18 件	70 件	5 件	5 件	4件	88 件	33 件	5 件
3 年度	実数	16 人	12 人	0人	6人	2 人	16 人	5 人	3 人
	延数	22 件	38 件	0 件	30 件	3 件	83 件	26 件	10 件

(ウ) 他の医療機関 入院

年度	科目	内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
2年度	実数	10 人	2 人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延数	169 日	29 日	0 日	0 日	0 日	0 日	0 日	0 日
3年度	実数	10 人	2 人	0人	0 人	1人	0人	0人	1人
	延数	291 日	12 日	0 日	0 日	24 日	0 日	0 日	23 日

②健康診断等の実施状況 (実施日時)

年度	対象人数	胸部集団検診	検尿検査	血液検査	歯科健診
2 年度	80	令和2年10月23日	令和3年2月1日	令和2年6月18日	- 令和2年10月12日
				令和2年12月14日	
3 年度	80 令和3年10月	△fn 2 左 10 日 25 日	△ 和 4 年 9 日 1 □	令和3年6月17日	- なし
		〒74日3 平 10 月 25 日	令和4年2月1日	令和3年12月15日	

8.事務

【職員研修参加状況】

① 施設内研修

研修内容
虐待に繋がる言動を知る/動画 ワークシート
目に見えない身体拘束を知る/動画 感想文提出
感染症の予防と対策について/動画 解答用紙提出
食中毒について/動画
10月から毎月開催
災害避難訓練前研修
職員腰痛予防/安全で快適な介助方法の取得
看取りについて学ぶ/動画
緊急時の対応について学ぶ/動画 感想文提出
介護事故の防止対策/動画 感想文提出
転倒事故について/グループ討議
安全な運転について
接遇マナー、事例検討、冬場の入浴の寒さ対策、感染症
について等(新型コロナウィルス感染のため書面研修
含)
接遇マナー、事例検討、認知症、食中毒、感染症につい
て等 (新型コロナウィルス感染のため書面研修含)

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
北星会法人合同研修	2 人	身体拘束ゼロ
北星会法人合同研修	1人	感染症
令和3年度京都府介護支援専門員実務	1人	介護支援専門員実務経験者専門研修 綾部
経験者専門研修 綾部		
京都府認知症実践者リーダー研修	2 人	認知症実践者リーダー研修 (Zoom)
2021 年ユニットリーダー研修	2 人	2021 年ユニットリーダー研修 (Zoom)
令和 3 年度老人福祉施設協議会新任	2 人	老人福祉施設協議会新任職員研修会
職員研修会福知山		福知山
ケアテックス大阪	4 人	ベッド・入浴機器等見学
令和3年度 看護・介護職リハビリ	4 人	Zoom
テーションステップアップ研修		
安全運転管理者講習会	1人	みやづ歴史の館
民間社会福祉施設 施設長研修	1人	オンライン
介護事業者のための業務継続計画	6人	オンライン
BCP 作成セミナー	_	
近畿老人社会福祉協議会施設長研修	1人	オンライン
医療と介護の連携推進研修会	4 人	オンライン

【介護実習等受入状況】

10月12日、13日 与謝野町立加悦中学校2年 職場体験学習

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
かるかも会	補修 (衣服の繕い)	2 回	8人

【各種会議開催状況】

会 議 名	開催回数/年
主任会議	12 回/年
リスクマネジメント委員会	12 回/年
サービス向上委員会/行事部会	6回/年
看取りケア委員会	4回/年
サービス向上委員会/排泄部会	4回/年
研修委員会	3 回/年
自己評価委員会	6回/年
感染症対策員会	6回/年
身体拘束ゼロ委員会	6回/年
褥瘡対策委員会	4回/年
医療的ケア委員会	5 回/年

まつり実行委員会	4回/年
部署間連絡会議	6回/年
入所検討会議	12 回/年
安全衛生委員会	12 回/年
新型コロナ対策会議	20/年
新人研修	7回/年
ショート調整会議	12 回/年

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月6日	85 人	年1回
腰痛健診	9月6日、2月14日	76人 59人	年2回
深夜業務従事者健診	2月	59 人	年1回
ストレスチェック	9月	68 人	年1回

令和3年度天橋の郷事業報告書

【年度総括】

令和 3 年度においても、「一人ひとりの生きる力を支える」という施設理念に基づき事業 計画に沿ってサービス提供を行いました。

長期部門においては、介護、看護、セラピスト、管理栄養士、調理員等の多職種が連携し、ご利用者の誤嚥性肺炎予防の取組をはじめ、ユマニチュードを用いた認知症対応、経管栄養や在宅酸素等の医療的ケアなどレベルの高いケアを提供し、天橋の郷で安心して生活していただける取り組みを進めました。令和3年度は23名のご利用者を看取りましたが、ご利用者の状態変化を的確に把握し、適切に対応することで21名の方に看取りケア加算を算定することができました。

ご家族の面会を制限する中、カラオケ、手工芸、おやつ作りの3つのサークル活動を継続するとともに感染症対策を徹底しながら屋外炊き出し装置を活用した青空食堂など工夫をこらした行事を提供し、ご利用者の生きがいのある生活の場とすることができました。

在宅サービス部門においては、地域包括ケアシステムの一翼を担う事業所として、居宅介護事業所や地域包括支援センター、病院の地域連携室等と連携をとる中で、医療的ケアが必要なご利用者や在宅で終末期の状況にある方、認知症の周辺症状により他事業所で対応が困難な方も積極的に受け入れを行いました。

ご利用者の状況とニーズを把握し、工夫を凝らした取り組みを積極的に進め、それをホームページや SNS で積極的に発信し、利用者獲得に繋げました。

職員の職場環境については、職員の負担軽減を進めるため、京都府と宮津市の補助金を活用し、全ユニットに眠りスキャン、インカム及び見守りカメラを導入することができました。 今後、活用を進める中でご利用者への影響を踏まえ職員の効率的な働き方を検討してまいります。

安心安全な施設づくりにおいては、内閣府の原子力災害対策施設整備事業の内示があり、 今後原子力災害の発生時に地域の方も含め避難していただける施設整備を令和4、5年の2 か年をかけて進めてまいります。

経営面では、コロナ感染症の影響を受け、在宅サービスを中心に利用控えが継続するとともに、冬季の積雪等の影響を受け稼働率が低下しました。

特に開設5年が経過した Re-style は、コロナ禍での利用控えを回復することができず稼働率が低迷するとともに費用も嵩み、事業活動資金収支差額がマイナスとなるなど、厳しい決算となりました。

今後、サービスの工夫と質の向上を図ることで他事業所との差別化を行い、そのことを広く情報発信することによりご利用者の獲得を図ります。また、費用面においても全体的に精査を行い、必要な部分には積極的に投資をする一方、削減すべき部分は見直しを行い収支の改善を進めます。

重点項目	中長期目標	今年度目標	実 績
1 少子高齢化が著し	1 感染症や災害へ	①事業継続計画の策定	(ア)感染症対策強化に向け、感染症委員会が中心と
く進む中にあって、	の対応力強化		なり PPE の着脱研修、ゾーニング設定研修を実施し
地域の社会資源の一			た。
つとして入所・在宅			(イ)感染症及び災害時の業務継続計画の次年度の
サービスのいずれに			策定に向け研修を受講した。
おいても、最後の瞬			(ウ)災害対策基本法の改正を受け改定された避難
間までその人らしく			情報の提供方法に基づき、天橋の郷の災害時避難確
生きることができ、			保計画を策定した。地元自治会へ一時避難所として
一人ひとりの尊厳が			の利用を呼び掛けた。
守られるよう、施設			
理念を実践する。			
2 介護・医療の連携、	2 地域包括ケアシ	②認知症への対応力向上	(ア)介護福祉士等の資格を所有していない職員に
多職種協働を推し進	ステムの推進		対し、認知症介護基礎研修を受講させた。(2名)
め、地域包括ケアシ		③看取り対応の充実	(ア)適切な看取りケアの実施に向け看取りケアの
ステムの具体的な取			マニュアルを見直すとともに、入居者の状態変化に
り組みやシステム作			対応し、適切な時期に看取りケア導入を行うことが
りに寄与できるよう			できた。(看取り介護加算 77 件 739,600 円)、
に努める。	3 自立支援・重度	④機能訓練、口腔、栄養の取	(ア)本年度は生活機能向上連携加算及び ADL 維持
	化防止に資する質	組強化	加算の獲得はできなかったが、天橋の郷通所におい
	の高い介護サービ		て来年度から ADL 維持加算が算定される見込。
	スの提供		(イ)栄養マネジメント強化加算は職員体制から加
			算獲得できなかったが、多職種の連携により経口維
			持加算、褥瘡マネジメント加算、排泄支援加算を獲
			得した。
			(ウ)各通所事業所において個別機能訓練加算、口腔
			機能向上加算を獲得し、ご利用者の機能維持に努め
			た。
		⑤科学的介護の実現	(ア)介護報酬請求にあたり、全事業所で LIFE 加算
			を算定できたが、科学的介護実現に向けた国からの
			フィードバックは今後。
3 介護・看護人材不	4 介護人材の確保	⑥業務効率化、業務負担軽減	(ア)特養・ショートすべてのベッドに眠りスキャン
足を補うために、多	と介護現場の革新	の推進	を設置するとともに、インカムと見守りカメラを導
様な働き方や人材登			入し、職員の負担軽減と作業効率化を図った。。
用を行い、レベルの			(イ)職員のみならずご利用者とその家族からのハ
高い専門職人材の育			ラスメントについて法人全体で取り組みを進めた。
成に努める。			

【事業報告】

- 1. 特別養護老人ホーム
 - ①入居利用者の状況
- (ア) 稼働率(入居定員: 70名)

年度 区分	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
2年度	365 日	25, 259 人	291 床	68.4人	98.9%
3年度	365 日	25, 222 人	313 床	69.1人	98.7%

(イ) 入退所状況 (3月31日時点)

	区分	新規入居者	待機者	退所者	施設内死亡	施設外死亡	施設移転	帰宅
4	年度			合計	(施設看取り)			
	2年度	22 人	92 人	23 人	22 人	1人	0 人	0人
					(16人)			
	3年度	26 人	95 人	26 人	23 人	1人	0 人	2 人
					(21人)			

(ウ) 地区別 入居状況

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	
2年度	81 人	6 人	1人	3 人	
3年度	84 人	3 人	1人	2 人	

(エ) 年齢・性別 入居状況

年齢性別	60~	~64	65~	~69	70~	~79	80~	~89	90~	- 99	1(以	00 上	合	計
区分	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
2年度	0	0	0	1	0	3	3	19	4	35	0	5	7	63
3年度	0	0	0	0	0	7	2	21	3	31	0	5	5	64
平均年齢	2	年度	男	性	90.	1 歳	女	性	91.	1歳	合	計	91	歳
十岁十脚	3	年度	男	性	90.	8歳	女	性	90.	1歳	合	計	90.	1歳

(才) 入居期間別 入居状況

(, 4) , ,													
期間区分	6か月未満			月以上 未 満		以上未満		以上未満	10年	以上		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
2年度	2	9	1	8	2	22	2	21	0	3	7	63	70
3年度	0	9	2	12	1	17	2	23	0	3	5	64	69
□ ★ ★ ★ ■ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	1月日		2年度	F		4年8	か月						
十岁八石舟	平均入居期間		3年度	F	4年11		か月						

(カ) 入居期間別 延入居状況 (特養)

期間性別	6 か月	未満	6 か月以上	二1年未満	1年以上	3 年未満		
年度	男	女	男	女	男	女		
2年度	2 人	17 人	2 人	18 人	2 人	19 人		
3年度	2 人	12 人	3 人	15 人	2 人	26 人		
期間性別	3 年以上	10 年未満	10 年	以上	=	+	^	⇒ I
期間 性別 年度	3 年以上 男	10 年未満 女	10 年 男	以上女	男	女	合	計
性別		,		,			合	計 92 人

(キ)介護度別 入居状況

介護度性別	要介	·護 1	要介	·護 2	要介	護 3	要介	護 4	要介	·護 5	合	計
区分	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
2年度	0	1	0	1	3	8	4	34	0	19	7	63
3年度	0	0	0	0	1	15	3	32	1	17	5	64
平均要介護度		2年度			4.0		3年度				4.0	

(ク) 介護度別 延入居状況

介護度 区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合	計
2年度	365 人	348 人	3,994 人	13,723 人	6,829 人	25, 25	9人
3年度	319 人	0 人	5,741 人	12,592 人	6,570人	25, 22	2人

(ケ) 加算の状況

加算項目 (単位)	個別機能訓練 加算 I (12)	個別機能訓練 加算Ⅱ (20)	看護体制 加算 I (4)	夜勤職員配置 加算Ⅱ (18)	認知症専門 ケア加算 I (3)	日常生活継続 支援加算(46)
算定延回数(回)	25, 222	458	25, 222	25, 222	17, 657	25, 222
加算収入額(円)	3, 026, 640	91, 600	1, 008, 880	4, 539, 960	529, 710	11, 602, 120

加算項目 (単位)	安全対策体制加算(20)	退所前訪問 相談援助加算 (460)	退所時相談 援助加算 (400)	退所前連携 加算(500)	看取り介護 加算 I (72)	看取り介護 加算Ⅱ(144)
算定延回数(回)	26	1	1	1	119	318
加算収入額(円)	5, 200	4,600	4,000	5, 000	85, 680	457, 920

加算項目 (単位)	看取り介護加 算Ⅲ (680)	看取り介護加 算IV (1280)	外泊時費用 提供体制強化 加算(246)	経口維持 加算 I (400)	経口維持 加算Ⅱ (100)	褥瘡マネジメン ト加算Ⅲ (10)
算定延回数(回)	41	36	94	402	402	27
加算収入額(円)	278, 800	460, 800	231, 240	1, 608, 000	402, 000	2,700

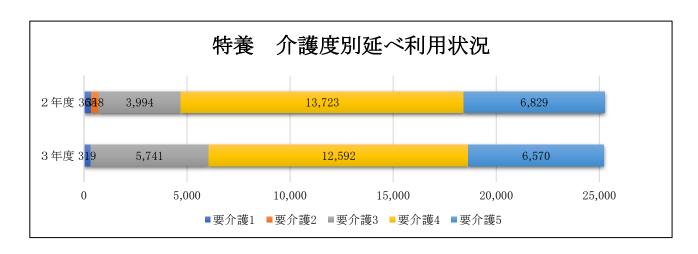
川川県は日 ン (単位)	§瘡マネジメ ✓ト加算 II (13)	褥瘡マネジメ ント加算 I (3)	排泄支援加算 I (10)	排泄支援加算 IV (100)	科学的推進体 制加算Ⅱ(50)	初期加算(30)
--------------	---------------------------	----------------------	------------------	--------------------	--------------------	----------

算定延回数(回)	627	22	576	18	858	737
加算収入額(円)	81, 510	660	57, 600	18,000	429, 000	221, 100

加算項目 (単位)	介護職員処遇 改善加算 I	介護職員等 特定処遇改善 加算	9/30 まで上乗せ 加算	加算収入額合計	
算定延回数(回)	861	861	433		
加算収入額(円)	18, 613, 135	6, 054, 912	109, 910	49, 930, 677	

(コ) その他の収入

項目 年度	貴重品管理料	エンゼルケア料	湯灌料	合計
3年度	1, 197, 000	5, 000	300, 000	1, 502, 000



2. 介護部

施設内での感染予防対策が進む中、職員の予防意識や自身の行動に対する責任感が 増し、職員が感染を持ち込まないことで入居者に影響を出すことなく過ごしていただ くことができました。地域の感染状況を確認しながらではありますが、ユニット毎の 企画や少人数でのサークル活動、摂食に時間差を設けた行事食企画等を楽しんでいた だくことができました。ご家族にはユニットからの毎月のお便りに写真を添えて、郷 での様子をお伝えすることを継続しています。

入職者を迎えるにあたっては、プリセプターをつけて指導育成しながら認知症の理解、看取りケア移行へのタイミングなど、ユニット全員が新人をフォローする体制を強化しました。新人育成にユニット単位で関わることで、職員自身が提供しているケアの確認とスキルアップができ、企画立案等積極的なユニット運営への参加にも繋げることができました。

入居者の状態変化には、随時セラピストのポジショニングや口腔ケア指導を仰ぎ、 他部署との連携も図りながら、誤嚥性肺炎の予防や褥瘡予防に力を入れ、健康の保持 に努めました。看取りケアへの移行もユニットと他部署との連携により適切な時期に 見取りの導入することができたことは、職員個々の観察力や情報共有の意識向上が伺 えます。各種加算に対する理解と意識も進んでおり、今後も継続してケアの質向上と コミュニケーション力向上に力を注ぎます。

・暁ユニット: 今年度は看取りケアへ移行される方が多く、それに伴い入居者の入れ替わりも多かったので慌ただしく感じた1年でした。職員間のコミュニケーションと連携をしっかりと図りながら情報の共有に努め、緊張感を持って変化する状況に対応することができました。

コロナ禍で大きな行事を行うことはできませんでしたが、感染症予防対策 をしっかり行いながらユニットの中でおやつ作り等できることを積極的に 実施しました。毎月のお便りを通してご家族にも近況を報告することができ ました。

記録入力に関しては不十分な面を感じているので、記録の重要さをユニット内で確認し、些細なことでもしっかりと記録を残すよう職員間で徹底します。

長期としては2階長期との連携を、1階フロアとしてはショートステイとの連携をと簡単ではなく課題もありますが、どちらも連携を怠ることなく協力体制の強化に努めます。

・泉ユニット: コロナ禍が続く中、職員の徹底した感染対策により入居者から感染者を出すことなく1年が過ごせました。

看取り期への移行や看取りケアにおいても、些細な変化を見逃さず職員間の情報交換や他部署との連携を強化することで、ご本人やご家族に安心して「最期までその人らしく」過ごしていただけました。

職員間のコミュニケーションにも力を入れ、紅ユニットとの情報共有や連携も強化することができました。また、自分達だけでは解決できない問題も他部署に相談し協力を仰ぐことでチーム力 up に繋がりました。

認知症対応においても、その都度職員間で意見交換を繰り返しながら柔軟に対応を検討し、実践できました。今後も全スタッフが認知症の理解を深め、 周辺症状を軽減できるケアが提供できるよう努めます。

新人育成ではプリセプターを中心に全スタッフで協力しながら指導に関わることで、自分たちのケアを振り返る機会となりました。

意思表示の困難な認知症や高齢の入居者の思いをくみ取り、寄り添うことの難しさはありますが、安心して生活していただくため、職員のコミュニケーション力を高めるとともに、快適な環境整備にも力を入れていきます。

・紅ユニット: 今年度は入居者間のトラブルが多く起こり、日によっては職員への暴言・ 暴力も加わる入居者の対応の難しさを痛感した1年でした。しかし、職員は その方を敬遠することなく寄り添うように対応しながらトラブル回避に努 めました。問題行動に対しユニット、他部署を含めカンファレンスを数回行 い、対応策を実施するもその方の心までは動かすことができず、根本的な解 決に至らなかったことが今後の課題として残っています。

> 2ユニット協力の連携では、ユニット会議以外にもこまめに相談を行い、 互いのユニット勤務に積極的に入ることにより入居者の理解を進めました。 をの中で業務改善についての意見も多く挙がり、ケアの見直しに繋げること

ができました。他部署とも早め早めの相談ができ連携が図れていたと感じています。

施設内感染を防ぐため、職員一人ひとりが持ち込ままいように意識を上げて対策の徹底ができました。行事企画では制限がある中ではありましたが、できる範囲で楽しんでいただこうと企画を立て実施しました。今後も安心で安全な援助を続けながら、楽しみの提供を工夫していきます。

看取りケアでは、ご家族の希望もあり最終段階で退所されて在宅で最期を 迎えられたケースがありました。ご本人にとって良かったのだろうと思う反 面、施設での看取りケア提供の意味を考えることにもなりました。

・翠ユニット: 今年度は、ADLの低下や状態変化によって全体的に入居者の介護度が上がり、看取りケアに移行される方もおられましたが、入居者一人ひとりの生活歴や思いにより添えるよう、チームで情報交換を行いながらケアに反映させることができました。日常生活の中でコミュニケーション量を増やし入居者と一緒に笑いながら過ごす時間を持てたことで、温かい言葉掛けをいただく機会も多くあり、信頼関係を築けていると実感することができました。

コロナ過で面会や行事の制限が多くあり、入居者のすべての希望に応えられませんでした。その中でリズム体操は、月に1回入居者と一緒に楽しむ良い機会が作れました。職員体制などから予定していた実施回数に達しませんでしたが、取組が入居者の記憶に残り、機能面にもよい影響があることが実感でき継続が大切であることを確認できました。今後も一緒に物作りや行事食企画など工夫し実践に努めます。

感染症対応では、基本的な予防対策の継続に加え、対応を変更する際はていねいな説明や声掛けを行うことで入居者の協力を得ることができました。

職員の異動で2ユニット間の協力体制をより意識しなければならないと 痛感しているところですが、これからも職員1人1人が2ユニット分の記 録の確認と日々の引継ぎで情報共有を密にし、互いのユニットを助け合い ながら日々の業務がスムーズに行えるように努めます。

・茜ユニット: 入居者のできることの把握が職員によって見解が揃わないケースがあり、 更衣介助の介入度合いや介助拒否に対して声掛けの仕方が統一しきれてい ない部分がありました。次年度は職員一人ひとりの気付きを大切にして情報 共有を行い、より統一した対応が取れるように努めます。

状態変化があった時は引継ぎや記録の入力、LINE 等で情報共有し、ユニット会議では必要なサポートの明確化と対応の統一に向けて話し合いを行い、チームワークを意識したケアに努めました。

看取りケアでは今期1名の方の看取り導入にあたっては、他部署と情報共 有・連携を取りながらスムーズに移行することができました。

行事は誕生日企画以外にも毎月実施し、(雑巾作り、クリスマス飾り、お やつ作り、忘年会、福笑い、お雛様作り等)入居者に楽しんでいただきまし た。次年度は行事を行なう職員が偏らないよう、毎月担当職員を決めて企画 を実施していきます。

ケアプラン・LIFE の更新については、担当職員を振り分けることで内容の理解を進めることができました。

茜翠ユニット間の業務習得では、互いの勤務を覚えるという意識ができてきましたが、協力に関しては職員によって差異を感じました。今後、フォローし合えるチームワーク作りを進めます。

第2回眠りスキャン会議を11月に行い、夜間の巡回のスケジュールの見直しを行いました。業務負担は減ったと思われますが、活用方法は以前とあまり変わらず、次年度5月の業者による研修でより有効な活用方法を学びたいと思います。

・和ユニット: コロナ禍が続く中、入居者から感染者を出すことなく1年を終えたこと は、職員の意識の高さと対策がしっかり行えた結果だと思います。

看取り対応では、細かな変化に気付き早期対応を行い、その人らしい最期を迎えて頂くことができました。また、今年度は特に、認知症対応を主に取り組んだ一年でした。日々変化する気分や行動を、これまで以上に観察し情報を共有し、意見交換を行いました。その時々の状況や状態に応じ、柔軟に修正を行いながら最善の対応に努めました。その一方で、認知症でない方への心身の負担に配慮した対応も行わなければならない状況に、同時に多様なタスクをこなさなければならない難しさを痛感し、今後の大きな課題となりました。入居者全員の思いに寄り添うことは容易ではなく、認知症の方もそうでない方も心地よく過ごして頂くために、認知症への理解を深め、より入居者を知ることで、質の高いケアを目指します。

・梓ユニット: 今年度、特に上半期は看取りケアに移行される方の時期が重なり、入れ替わりも多くケアに追われる時期もありました。看取りに入られた方のその時々の状態に合わせ、本人の負担を軽減できるよう早めの対処に努めたことで、ご本人に寄り添った看取りケアが行えたのではないかと思います。

コロナ禍でもあり家族との面会が難しい中で、お便りを通して日頃の様子を知っていただけるように取り組みました。誕生日企画以外での大きな行事はあまり実施できませんでしたが、時間を工夫しながら簡単な体操や歌を歌う等の身近なレク活動を積極的に取り入れ、入居者と一緒に過ごす機会を増やしました。

新規入居者に対しては、統一したケアが早期に提供できるようユニットで話し合い、情報を共有しながらチーム力の向上に努めました。また、スピーチロックをしない取り組みの継続で、職員が言葉使いや態度を意識して業務にあたれるようになってきたことを実感しています。今後も継続して取り組み、確実なものとして習慣づけていきます。

3. 看護部

ユニット職員を中心に、高齢者の特性を理解した上で入居者一人ひとりの健康状態 と日常の状態を知り、その人らしい生活が送れるように、受診が必要な時には速やか に嘱託医や担当医と連携しその指示のもと個々に応じた治療の場を提供する事ができ

ました。

入所~終末期においても全職種チーム一丸となって常に観察し、同じ方向性で個々にあったケアを考え提供できました。

今年度はコロナ感染症の発生もあり看護師として、またチームリーダーとして周囲のスタッフの力を借りながら業務を遂行する事により、感染拡大にならずに終息する事ができました。今回の経験を基にさらなる対策強化や今後の BCP 対策活用に活かせたらと思います。最新に情報をキャッチしながら知識・技術の向上に努め業務に努めていきたいと思います。

①診療状況 (天橋の郷)

(ア) 天橋の郷

年度	科目	内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
2年度	実数	93 人	2 人	0人	8人	0 人	9人	0 人	0 人
2 平皮	延数	729 回	2 回	0 回	51 回	0 回	98 回	0 回	0 回
3年度	実数	94 人	8人	0人	8人	0 人	6人	0人	0人
5 平度	延数	998 回	28 回	0 回	28 回	0 回	59 回	0 回	0 旦

(イ) 他の医療機関 通院

(, , ,		.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,							
年度	科目	内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
2年度	実数	14 人	16 人	1人	0人	1人	2 人	0人	0人
2 年度	延数	19 回	36 回	1回	0 回	1回	9 回	0 回	0 回
3年度	実数	11 人	11 人	0 人	0人	0人	0人	0人	0 人
5 千茂	延数	13 回	23 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回

(ウ) 他の医療機関 入院

年度	科目	内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
2年度	実数	6人	4 人	0人	0人	1人	0人	0人	0 人
2 平皮	延数	7 回	4 回	0 回	0 回	1 回	0 回	0 回	0 回
3年度	実数	8人	2 人	0人	0人	1人	0人	0人	0人
3 平反	延数	8 回	3 回	0 回	0 回	1 回	0 回	0 回	0 旦

②健康診断等の実施状況

	対象人数	胸部集団検診
2年度	69 人	令和2年10月13日
3年度	69 人	令和3年10月26日

4. 支援室

新型コロナウイルス感染症の感染予防により入居者の生活が制限されて丸2年が経過しました。一時的に面会制限の一部解除、パネル越しでの短時間の面会、オンライン面会等を実施し、また、毎月顔写真入りのお手紙で様子をお伝えする事はありましたが、

入居者が家族と触れ合いながら過ごす時間を持つことができない中で看取りケアに移 行される方もありました。

施設内で死亡された方の中で看取りケアへの移行ができた方は、昨年度は 72%でしたが、今年度は 91%とユニット職員や多職種がしっかり状態観察ができたことでスムーズな看取りケアへの移行や加算の算定にも繋がりました。

コロナ禍で制限はありますが、入居者の生活が潤いのある日々になるよう余暇活動に も取り組み、サークル活動委員会の発足や行事(青空食堂・麺処さと・ドライブ等)を 実施することができ、入居者に楽しみが提供できました。

稼働率については、退所が多かったことに加え、昨年度同様に骨折事故や内科的疾患による長期間の入院が影響し、目標を大きく下回る結果となってしまいました。

(ア) 相談件数

年度	入所相談	在苑者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合	計
2年度	101 件	2件	24 件	0件	0件		127 件
3年度	122 件	2件	26 件	2件	0 件		152 件

(イ) 待機者数(地区別)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合	計
2年度	38 人	41 人	6 人	9人		94 人
3年度	30 人	53 人	4 人	8人		95 人

(ウ) 待機者数(介護度別)

介護度年度	要支援·他	要介護1	要介護 2	要介護3	要介護4	要介護 5	合	計
2年度	0 人	0 人	3 人	51 人	31 人	9 人		94 人
3年度	0人	0人	0人	65 人	22 人	8人		95 人

(エ)退去状況 (特養)

年度 区分	退去先	自宅 家族宅	医療機関 (入院)	看取りによる 死亡	その他	合 計
2年度	人数	0件	1件	22 件	0件	23 件
2 年度	比率	0%	4.3%	95.6%	0%	100%
3年度	人数	2 件	1 件	23 件	0件	26 件
0 千度	比率	7.7%	3.8%	88.5%	0 件	100%

5. 給食部

令和3年度も新型コロナウイルスの流行が続き、外出することも難しい日常の中で ご利用者に少しでも季節を感じていただくために、地元の新鮮な食材を使用し趣向を 凝らしたメニューで楽しくておいしい料理を提供することに努めました。

各部署がコロナ禍でもできる行事を工夫しながら企画し、ご利用者のお誕生日には 丹後のバラ寿司を提供する等、ご利用者の楽しみとなる料理の提供に努めました。 デイサービスでは握りずしを提供したり、調理員も出向きご利用者とサツマイモのて

んぷらを揚げたりすることもでき喜んでいただきました。又、災害時用に導入したガ スコンロと炊飯器を使用し豚汁作り、炊き立てご飯でのおにぎり作り等もご利用者と 実施し、外で一緒にいただく企画もできました。

配食サービスは、お弁当を丁寧に作り安否確認を兼ねてお届けすることができまし た。また天橋の郷デイサービスとはまなす苑の平日持ち帰り弁当もご利用者においし いと喜んでいただくことができ、提供食数も前年度より約400食増加しました。

2月には新規入職者があり新人教育として技術や知識の伝達に試行錯誤しながら力を 注ぎましたが、来年度はプリセプター制度を導入し、さらに効果的に教育体制がとれる ようにしていきたいと思います。

①提供実績

(ア) 延食数

年度	特養	短期入所	通所	
2 年度	25, 196 食	6,810食	12,506 食	
3 年度	25,139 食	6,570食	11,831 食	

(イ) 栄養基準(1日あたり)

項目区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (µgRE)		ビタミンB2 (mg)	ビタミン (mg)
基準	1, 400	50	550	30	6	560	1	1	100
2年度	1, 446	56	475	40	5. 0	447	0. 7	0. 9	75
3 年度	1, 439	56	472	40	5. 0	449	0. 7	0.9	72

(ウ) 食具 野別 摂 取 景 (1 1 1 日 当 た り 食 県 構 成)

(ウ) 食品群	(ウ) 食品群別摂取量(1人1日当たり食糧構成) (単位:g								: g)							
	1	群		2 群				3	į	眻		2	4 群	É		
群類	牛乳	戼	魚	獣鳥	豆	大豆	味	至	緑黄色	淡色	果	芋	海			油
区分	乳製	VCT	介	肉	VCT.	製		果	色野菜	野	実	Ver*	藻	米	麦	114
	品	類	類	類	類	品	噌	類	采	菜	類	類	類			脂
基準	250	20	70	50		50		1	80	150	50	40	5	18	80	3
今年度平均	275	16	68	51		40		1	85	159	52	38	2	1'	77	3

6. 短期入所

最近の傾向として特養の待機期間が短く、要介護3以上の回転率が速いことを意識 して稼働率向上・維持に努めました。しかし、2月にご利用中の方のコロナ陽性者が 確認されてから以降、終息し利用再開となるまでの約 10 日間に予約いただいていた ご利用者35名に利用をお断りしたことで、大きく稼働率が下がる結果となりました。 その他の要因として昨年同様にコロナの影響は続き、介護者であるご家族の外出控え から在宅で対応されるケースがあり、利用日数が定着しませんでした。

一方で、積極的に緊急の受入を行いました。緊急受入はすべて新規の受け入れであ り、介護現場の柔軟な受け入れ態勢により実施することができました。看取り期の受 入れに関しても多職種と連携しながら行いました。年々増えつつある認知症の方のご利用も、適切なケアを心がけながら安心して利用していただけるよう個別ケアに努め、徐々に利用日数が増えています。天橋の郷拠点にある3か所の通所事業所を強みとして捉え、共通するご利用者が安心して住み慣れた地域で利用いただけるよう情報共有に努め、さらに新規獲得を目指します。

• 介護部

今年度はショートステイのご利用者から 1 名のコロナ陽性者が出るという結果となりました。しかし、その後の感染症対応を施設全体でしっかり行うことによりクラスターが発生することなく、終息することができたことは大きな成果と考えます。今後も定期的な検温・消毒、換気などの感染症対応を行い、職員一人ひとりが自分自身の体調管理、行動管理を行うとともに、起こりうる有事の際には、今回の経験を活かせるようにマニュアル化を進め、どの部署で発生しても早期対応、早期終息ができるように協力していきます。

在宅サービスの充実に伴い、ショートステイの偏った週末利用希望が増加するとともに入退所数が増えております。介護業務だけでなく、入退所の準備などの雑務が増える中、職員間・ユニット間の連携や介護型と家事型の分業化など業務改善を進めることができました。

昨年度同様にショートステイでは、介護度1~2の身体機能的に自立されている認知症のご利用者の利用が増えています。そのため、転倒や離設のリスクを回避しながら認知症への適切な対応を行うなど職員の精神的な負担が強くなっている傾向があります。その中であってもできるだけ安心して楽しく生活していただけるように個別ケア、自立支援を意識してケアを行うことができました。また、コロナ禍であっても徐々にレクレーションや行事を企画し、楽しみの提供に努めることができました。

今年度も事業計画を意識した業務を行い、専門性の追求・根拠のあるケアの提供に努め、地域で多数あるショートステイの中で最も信頼され、必要とされるショートステイを目指していきます。

昴ユニット: 人材不足の中、職員個々に目標をもって、ご利用者のニーズに合ったサービスを提供することができました。コロナウイルスの感染者が発生した際には、感染症対応をショート全体で協力し、取り組む事ができました。また、コロナ禍でご利用者の嗜好に応じたレクレーションの提供が十分にできませんでしたが、状況にあったものや提供可能な事を考え、少しでもご利用者に楽しんで頂けるように努めました。また入退所の対応や荷物チェック、居室掃除などの業務に追われながらも短時間でもご利用者との関わりを大切にし、一人一人に合った個別ケアを意識することができました。

徐々にではありますが、ショート全体での協力体制や連携等が取れてきていると感じていますので、より強化していきます。

虹ユニット: 職員の配置が不十分なこともあり、慌ただしかった中でも虹・昴ユニットで協力し合い業務にあたってきました。その中でもご利用者のニーズに沿って援助するように職員一人ひとりが努めることができました。認知症、感染症に関しては対応の重要性をしっかりと理解して取り組んでいたつもりでしたが、まだ十分ではないと感じる場面もありましたので、今後の課題としてしっかり取

り組んでいきます。また、コロナウイルス感染症対応や入退所時の対応でレク リエーションや行事はあまり行うことができませんでしたので、令和 4 年度の 課題として積極的に取り組んでいきます。

ショート職員同士で協力し合い、働きやすいユニットになってきたと感じていますので今後も連携を深めます。

①利用者の状況

(ア) 稼働率(定員:20名)

区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
年度				
2 年度	365 日	6,879 人	18.9 人	94. 2%
3 年度	365 日	6,646 人	18.2 人	91.0%

(イ) 契約数

	区分	新規入所者
年度		
2年度		47 人
3年度		43 人

(ウ) 地区別 入所状況

地域	宮津市	与謝野町	福知山市
年度			
2年度	148 人	1人	1人
3年度	137 人	2人	1人

(工)介護度別 入所状況

介護度性別	要支	:援1	要支	:援 2	要介	護1	要介	護 2	要介	護3	要介	護 4	要介	護 5	合	計
年度	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
2 年度	0	3	0	2	5	25	13	32	15	26	10	13	2	9	45	110
3 年度	0	1	0	1	4	11	11	34	10	31	10	17	4	6	39	101
平均要介護度		2 年	三度			2.	36			3 年	三度			2.	. 67	-

(才) 要支援度別 入所状況

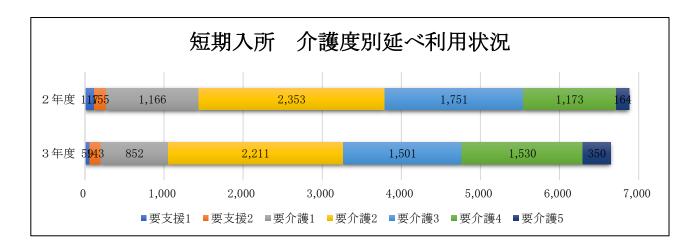
要支援度	要支	:援 1	要支	:援 2	合	計
生別 年度	男	女	男	女	男	女
2年度	0	3	0	2	0	5
3年度	0	1	0	1	0	2

(カ) 介護度別 延入所状況

介護度 年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
2 年度	117 人	155 人	1,166人	2,353 人	1,751人	1,173人	164 人
3 年度	59 人	143 人	852 人	2,211 人	1,501人	1,530人	350 人

(キ) 加算の状況

加算項目 年度 金額	機能訓練 体制加算 (12)	サービス提供 体制強化加算 II (18)	夜勤職員配置 加算 II (18)	在宅中重度者 受入加算 4 (425)	送迎加算 (125)	緊急短期入所 受入加算 (90)
算定回数(回)	6, 646	6, 646	6, 444	19	2, 498	17
金 額(円)	797, 520	1, 194, 840	1, 167, 300	80, 750	4, 592, 640	15, 300
加算項目 回数 金額	処遇改善 加算 I	特定処遇 改善加算 I	令和3年9月 30日までの 上乗せ分	加算収入額 合計		
算定回数(回)	953	953	505	14 667 060		
金 額(円)	5, 124, 250	1, 667, 370	28, 050	14, 667, 060		



7. 通所

昨年度と同じく、新型コロナウイルスの影響を様々な面で受ける一年となりましたが、 感染症対策や予防に努めながら様々な行事・レクリエーションの提供を行い、ご利用者 に非日常の楽しみや喜びを提供する事ができました。コロナ禍ではありますが、余暇活 動の一層の充実を図り、スタッフ皆が力を合わせてできる事・やれる事を探し、考えな がら実施することで、ご利用者は元よりスタッフも楽しみながら取り組むことができ、 意欲向上に繋がりました。

来年度も『選べるデイサービス』などの日々のサービス提供内容の充実を図りながら、 余暇活動など非日常の楽しみにも力を入れていき、ご利用者にとってもスタッフにとっ ても、より良い事業所となるような活動を続けていきます。

年間計画より、

- 創作…ご利用者の状況に合わせたプログラムの準備を行い、その方ができる事・やり たい事の提供できる配慮しながら提供を行いました。季節に応じた制作、壁面 家飾り、書道を実施しました。
- 園芸…季節の野菜を中心に園芸を行いました。収穫した野菜を行事食として使うなど、 園芸に直接関わらない方にも収穫を実感してもらえるような働きかけも意識し た取り組みを行いました。園芸の場所が作業しやすい場所では無いので、環境 整備にも目を向けた取り組みを検討していきたいと思っています。
- 運動…ニュースポーツだけでなく、テーブルゲームの提供にも力を入れてきました。

ルールが少し難しいなど、今まで参加が難しかった方にも参加してもらえるようになり、改めて様々な種類のものを準備することが必要だと認識をさせてもらいました。今後もマンネリ化しないように気を付けながら、身体を使いながら楽しめる時間・空間の提供に努めていきます。

脳トレ…変わらず好評のカラオケはご利用者の年齢層の変化と共に流れる曲にも変化 が出てきています。その時代を感じてもらいながら楽しめるような工夫もして いきたいと思います。

稼動率は年間計画に届かず、厳しい数字となりました。コロナウイルスの影響も少なからずあり、コロナ禍での利用控えだけでなく、ワクチン接種で休まれる方が多くありました。また、冬季の積雪の影響も大きい一年となり、例年以上に冬季の稼働率が低下しました。持病の悪化や身体状況の変化に伴う利用中止や他サービスへの移行の方が、特に秋口以降に多くおられ、新規利用者の獲得に務めたものの、稼働率低下を補うことはできませんでした。引き続き柔軟な新規利用者受け入れを続けていくと共に、ご利用者の生活状況や住環境にもしっかりと目を向けていき、ご家族や担当ケアマネと連携して体調の安定・転倒などのリスク回避に関する働きかけもおこない、稼働率の維持・向上に努めていきます。

加算に関しては、口腔機能向上加算で半数以上のご利用者にサービス提供をしており、 気持ちが良いと皆様から好評を得ており、利用中だけでなく自宅での口腔内清潔保持も 図る事で誤嚥性肺炎のリスク軽減を図っていきます。また、今年度評価実施を行った ADL 維持等加算については令和 4 年 5 月から算定開始を見込んでおり、今後も算定可能な加 算をしっかりと算定できるように情報収集と準備を続けていきます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率 (要介護者及び要支援者)

年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
2年度	35 人	260 日	7,899 人	86.8%	1.4
3年度	35 人	259 日	7,721 人	85.2%	1.4

(イ)介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
2 年度	2,795人	2,284 人	808 人	247 人	83 人	6,217 人
3年度	2,796人	2,061 人	779 人	309 人	13 人	5,958人

(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	合 計
2 年度	434 人	1,248人	1,682 人
3年度	539 人	1,224 人	1,763 人

(エ) 加算の状況

	加算項目 数 額	個別機能訓練 加算 I 1 (56)	個別機能訓練 加算 I 2 (85)	個別機能訓練 加算Ⅱ (20)	認知症加算 (60)	入浴介助 加算 I (40)	口腔機能向上加 算 II (介護) (16)
舅	定回数(回)	453	4, 687	656	850	5, 258	942
力	『算収入額(円)	253, 680	3, 983, 950	131, 200	510,000	2, 103, 200	150, 720

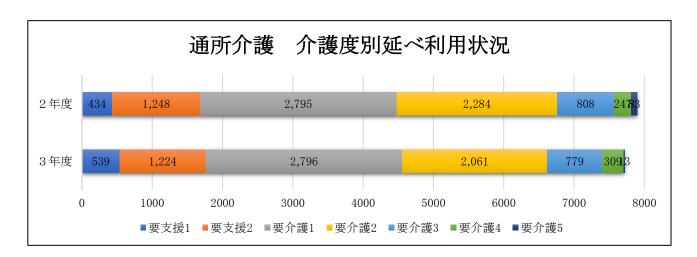
加算項目 回数 金額	科学的介護推進体 制加算(介護) (40)	送迎減算 (-47)	サービス提供 体制加算 Ⅱ (18)	処遇改善加算 I (介護) (59/1000)	特定処遇改善加算 I (介護) (12/1000)	R3.9/30 まで の上乗せ加算 (介護)
算定回数(回)	711	491	5, 958	784	784	401
加算収入額(円)	284, 400	-230, 770	1, 072, 440	3, 167, 460	644, 360	23, 510

通所介護 合計加算収入額 12,094,150円

加算項目 回数 金額	運動機能向 上加算 (225)	事業所評価 加算 (120)	サービス提供 体制加算Ⅱ1 (72)	サービス提供 体制加算Ⅱ2 (144)	複数サービス 実施加算 I 2 (480)
算定回数(回)	229	322	143	179	93
加算収入額(円)	515, 250	386, 400	102, 960	257, 760	446, 400

加算項目 回数 金額	処遇改善加算 I (予防) (59/1000)	特定処遇改善 加算 I (予防) (12/1000)	R3.9/30 まで の上乗せ加算 (予防)
算定回数(回)	322	322	154
加算収入額(円)	608, 180	124, 270	3, 870

予防通所介護 合計加算収入額 2,445,090



8. Re-s t v l e 通所介護事業所

昨年度から続くコロナ禍で一定の制限もありましたが、その中で職員が工夫をしながらご利用者が楽しく参加できる屋外でのイベントを中心とした活動に取り組む事ができました。一方で機能訓練では、開設当初からのご利用者の状態変化により、以前実施していたメニューを一部変更し実施したことが、一部のご利用者の不満につながりました。

また、徹底した感染対策の上、メニューを実施していましたが、一部のご利用者 に感染対策不足の指摘を受けたため、感染対策の見直しを図りました。

今後は今一度ご利用者との関わりを見直し、職員一人ひとりが細やかな配慮を意識 し、ご利用者との関係づくりに努めます。

年度活動計画より

今年度は、開設当初からの目標であった橋立ウォーキングを達成することができました。また、日頃から外出の機会が少なくなっているご利用者が多くなっている中で、心身のリフレッシュを目的とした外出イベントはとても好評で、今後も継続して実施します。今年度は計画にあげていた屋外スポーツを実施できませんでした。屋外でのスポーツを望む声もあるため、種目や実施方法を検討しながら、実施に努めます。一方で、屋外活動を望まれない方も少数おられるため、屋外活動に替わる活動ニーズを把握し、実施に努めます。

利用実績より

新規契約者数は年度目標に達しましたが、利用中止者も同数あり延べ利用者数 や稼働率が昨年を上回ることはできませんでした。開設当初からのご利用者の状態変 化により他事業所への移行される方が多く、ご利用者の入れ替えが進んだ1年でもありました。また転倒により骨折入院になり、そのまま長期休養になる事例が例年よりも多くみられ、コロナ禍での外出控えによる身体面、精神面の低下が少なからず影響を受けていると思われます。

また、冬期は予想以上の寒波に見舞われ、1年通じてその低下分をカバーすることができませんでした。

来年度に向けて

今後は一人ひとりのご利用者のニーズをもう一度見直し、満足度を上げる事を意識し、柔軟な発想でサービスを提供しながら、日々の活動を外部にも発信していきます。

今年度は職員の異動などもあり、職員の研修参加があまりできていなかった為、 次年度は研修を通じた職員のスキルアップに積極的に努めます。

①利用実績

(ア)延べ利用者数及び利用率(要介護者及び要支援者)

年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
2 年度	AM • PM 15/15	260 日	4,482 人	57. 5%	0.8
3年度	AM • PM 15/15	259 日	4,430 人	57. 0%	0.7

(イ)介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
2 年度	1,069人	467 人	71 人	26 人	0人	1,633 人
3年度	989 人	448 人	85 人	0人	0人	1,522 人

(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	事業対象者	要支援 1	要支援 2	合 計
2 年度	36 人	2,302 人	511 人	2,849 人
3年度	115 人	2,349 人	444 人	2,908 人

(エ) 加算の状況

【通所介護】

加算項目 回数 金額	個別機能訓練 加算 I 1 (56)	提供体制 加算 I (22)	科学的介護 推進体制加算 (40)	送迎減算 (-47)	処遇改善加算 I (59/1000)	特定処遇改善加算 I (12/1000)
算定回数(回)	1, 377	1, 521	327	18	356	356
加算収入額(円)	771, 120	334, 620	130, 800	-8, 460	467, 230	94, 630

加算項目回数金額	R3.9.30まで の上乗せ加算
算定回数(回)	188
加算収入額(円)	3, 400

【予防通所】

加算項目回数金額	運動器機能向 上加算 (225)	サービス提供 体制加算 I 1 (88)	サービス提供体 制加算 I 2 (176)	科学的介護 推進体制加算 (40)	処遇改善加算 I (59/1000)
算定回数(回)	751	643	109	689	751
加算収入額(円)	1, 689, 750	565, 840	191, 840	275, 600	1, 005, 850

加算項目回数金額	特定処遇改善加算 I (12/1000)	R3.9.30 まで の上乗せ加算
算定回数(回)	751	366
加算収入額(円)	202, 620	7, 760

予防通所合計加算収入額	3, 939, 260
-------------	-------------

(オ) 新規契約者の状況

介護度 年度	要支援 (事業対象者含)	要介護	合	計
2 年度	8人	7 人		15 人
3年度	16 人	4 人		20 人



9. はまなす苑通所介護事業所

今年度もご利用者とスタッフが心から楽しめる施設づくりに取り組んできました。昨年に続きイベント等の活動に力を入れ、環境面もこだわりを持ち盛大に行ってきました。また、取り組みを SNS で発信し、多くの方にはまなす苑を知っていただけるとともに評価を得ることで職員のモチベーションにも繋がりました。

昨年度は開催が難しかった「はまなすマルシェ」を開催することができ、地域の方々と触れ合い、はまなす苑のことを改めて知っていただく良い機会となりました。また、ご利用者も自分で作った作品が売れる喜びを感じ、活動もより熱心に取り組まれるようになりました。地域貢献として「はまなすクリーン隊」を結成し、駅前の桜並木の草抜きを行う事で、地域の方々に感謝され地域社会の一員として自信を持つこともできました。今後も地域に向けて発信し続け、はまなす苑と地域との距離がより身近なものになるよう実現していきます。

稼働率、収支では、昨年度を大幅に下回りました。新規獲得も思うようにいかず、その中で老健や特養の入所、特に入院される方が多くみられ、そのまま利用中止になる方も多数ありました。来年度はそういった状況にも対応できるよう、関係機関や医療機関との連携をさらに密にとり、地域住民やご利用者にも声をかけながら新規利用者の獲得に努めます。また、新規の要支援者や事業対象者が利用したいと思えるような施設づくりをスタッフ全員で一丸となりまい進していきます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率 (要介護者及び要支援者)

年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
2年度	20 人	260 日	4,603 人	88.5%	1.9
3年度	20 人	259 日	4, 196 人	81.0%	1.9

(イ)介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合	計
2年度	1,724人	1,067人	1,176人	182 人	186 人	4, 3	335 人
3年度	1,677人	744 人	1,077人	243 人	167 人	3, 9	908人

(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	事業対象者	要支援 1	要支援 2	合 計
2年度	19 人	93 人	156 人	268 人
3年度	8 人	40 人	240 人	288 人

(エ) 加算の状況

【通所介護】

加算項目回数金額	入浴介助 加算 I (40)	認知症 加算 (60)	送迎減算 (-47)	サービス 提供体制 加算 I (22)	口腔機能 向上加算 I (150)	科学的 介護 推進体制 加算 (40)	処遇改善 加算 I (59/1000)	特定処遇 改善 加算 I (12/1000)	令和3年 9月30日 までの上 乗せ加算
回数	3, 683	1, 417	60	3, 906	690	388	424	424	219
金額	1, 473, 200	850, 200	-28, 200	859, 320	1, 035, 000	155, 200	2, 064, 040	419, 940	16, 370

通所介護合計加算収入額

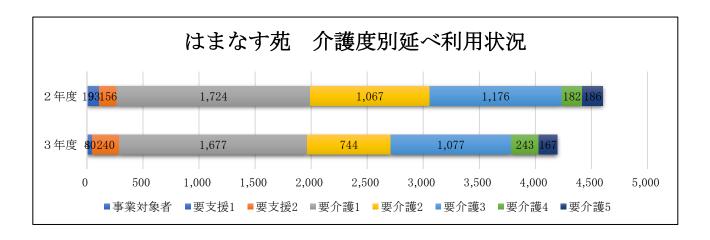
6,845,070

【予防通所】

加算項目 回数 金額	運動器機能 向上加算 (225)	口腔機能 向上加算 I (150)	サービス 提供体制 加算 I 1 (88)	サービス 提供体制 加算 I 2 (176)	科学的介護 推進体制 加算 (40)	処遇改善加算 I (59/1000)	特定処遇 改善 加算 I (12/1000)	令和3年9 月30日 までの上 乗せ加算
回数	42	7	10	30	37	42	42	22
金額	94, 500	10, 500	8,800	52, 800	14, 800	80, 460	16, 260	560

予防通所合計加算収入額

278,680



10. 事務

【配食サービス】

項目 年度	介護配食
2 年度	1,266 食
3 年度	1,181 食

【持ち帰り弁当】

年度	持ち帰り弁当
2 年度	2,564 食
3 年度	2,941 食

【おむつ等販売】

項目 年度	販売数(パック)
2 年度	1,170 個
3 年度	1,105 個

【職員研修参加状況】

①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
認知症ケア委員会	58 人	認知症ケアの実践報告
感染症予防委員会	56 人	食中毒予防について 手指洗浄・手指消毒
事故防止・拘束対策委員会①	33 人	転倒事故について 身体拘束事例について
排泄ケア・褥瘡予防対策委員会	61 人	基本的な排泄ケアとおしり洗浄について
看取り委員会	61 人	看取り専門研修 (伝達研修)
感染症予防委員会①	78 人	コロナ感染予防について 予防着の脱着 手
		指洗浄
事故防止・拘束対策委員会②	72 人	不適切ケアの動画鑑賞と各部署ごとのグルー
		プワーク
安全衛生委員会	28 人	産業医より「高血圧と高脂血症について」
感染症予防委員会②	78 人	コロナ感染症発生時の各事業所毎の対応等
普通救命講習(2回開催)	45 人	3 時間の救命講習

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修の開催方法・研修内容
福祉職のためのマナー研修	2 人	福祉職員としての心得について
京都認知症カフェセミナー	3 人	(Zoom)認知症カフェの運営について
安全対策担当者養成研修	1人	(e-ラーニング) 施設内事故対策対応について
介護現場のざっくばらんな座談会	6人	(Zoom)市内の介護職員の意見交換
業界セミナー	2 人	(Zoom)人材確保について
基本のコミュニケーション研修	1人	(Zoom) 対人援助の基本について
老人福祉施設看護・介護職員研修	1人	(Zoom) 感染症予防について
福祉即戦力人材養成科「講師養成研	2 人	講師としての事前研修
修」		
スーパーバイザー養成研修	1人	延べ5回 指導職員として
京都府機能訓練指導員等研修	1人	(Zoom)機能訓練指導員研修
教育研修会	2 人	(Zoom)原子力災害発生に対する備えについて

·		
栄養士等ネットワーク推進研修会	1人	(Zoom)管内の栄養士研修
キャリアアップ研修	1人	実践報告者「先輩職員として」
認知症介護実践リーダー研修	1人	(Zoom)リーダーとしての認知症介護について
医療と介護の連携推進研修会	3 人	(Zoom)管内の医療介護の連携について
高齢者施設リーダー看護師養成研	1人	(Zoom)新型コロナ施設内感染拡大防止について
修		
キャリアアップ研修(管理者)	2 人	管理者として
対人援助の基本 相談面接技術セ	1人	相談面接の基本について
ミナー (基礎編)		
対人援助の基本施設相談面接技術	1人	実践事例を通して
セミナー (ステップアップ編)		
京都府機能訓練指導員研修会	3 人	(Zoom)機能訓練について
認知症を知ること	3 人	(Zoom)市内の介護職員対象 認知症の基礎につい
		て
認知症の人の意思決定支援研修	2 人	(Zoom)人権に配慮した支援について
福祉リーダーの極意を学ぶ研修	1人	(Zoom)福祉リーダーの心得について
褥瘡と栄養オンラインセミナー	1人	(Zoom)褥瘡の発症と栄養摂取について
リハビリテーション ステップア	1人	(Zoom)機能訓練指導員対象の研修
ップ研修		
法人職員研修	2 人	事故発生・再発防止について
京都府民間社会福祉施設長研修会	1人	(Zoom) ICT の活用について
人権教育推進研修会	1人	事業主のパワハラ防止に係る管理上の措置につい
		7
宮津市在宅医療介護連携シンポジ	2 人	人生会議について
ウム		
福祉サービス苦情解決事業セミナ	3 人	(Zoom)利用サービスへの苦情解決について
施設運営管理職員研修	1人	(Zoom)「BCP策定にあたって大切にしたいこと」
计 1 11 11 11 11 11 11	1 1	良体均支排除のための時 19 41 7.
法人職員研修	1人	身体拘束排除のための取り組み (7~2~) 控制内系取り介護について
施設看取り介護導入研修	1人	(Zoom)施設内看取り介護について
福知山市避難のあり方推進シンポー	1人	(Zoom)豪雨災害について
ジウム	- I	(7) D.C.D.英字IZ O.Y.Y
介護事業者のためのBCP作成セ	1人	(Zoom) B C P 策定について
ミナー	- I	(7) コロ土畑 ベハコエノエマ叶 0 1 カリー こ
老人福祉施設職員研修	1人	(Zoom)コロナ禍でのフレイル予防&レクリエーシ
学机中工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	0 1	ョン研修」
京都府オレンジロードつなげ隊推	3 人	(Zoom)認知症患者の在宅支援について
進員合同研修	- 1	(7) 京野水市休野・10マーン・マ
宮津市高齢者虐待防止研修会	1人	(Zoom)高齢者虐待防止について

丹後圏域リハ実践交流会	2 人	(Zoom)機能訓練指導員の意見交換
施設看取り介護専門研修	1人	(Zoom)看取り介護リーダー職員研修
施設看取り介護専門研修(施設長向	1人	(Zoom)施設内での看取り介護について
け)		
京都府原子力災害時医療講習会	1人	(Zoom)災害時発生時のヨウ素服用について
認知症介護実践者等養成研修	3 人	(Zoom)認知症について実践事例を通し学ぶ
認知症介護基礎研修	2 人	e-ラーニング 無資格職員を対象とした研修

【介護実習等受入状況】

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、受入れは中止した。

【ボランティア活動状況】

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、受入れは中止した。

【各種会議開催状況】

会 議 名	開催回数/年
感染症予防委員会	21回
認知症ケア委員会	4回
排泄ケア・褥瘡予防委員会	4回
事故防止・拘束廃止委員会	12回
看取り委員会	4 回
安全衛生委員会	12回
業務運営会議	12回
入所判定会議	22回
介護会議	12回
ユニット会議 (各ユニット毎)	12回
デイ会議	12回
地域貢献PR委員会	12回
医務会議	12回
調理会議	12回
給食会議	6 回

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月8日	109 人	年1回
腰痛健診	9月8日・2月16日	93 人・83 人	半年に1回
深夜業務従事者健診	2月16日	37 人	年1回
ストレスチェック	9月8日	90 人	年1回

介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑 事業報告書

【事業統括】

令和3年度は、令和2年度と同様、新型コロナウィルスの感染が流行する中、感染対策を十分に講じ、介護サービスを提供していく状況となりました。当施設は地域の高齢者福祉施設の整備や充足状況、地域で介護サービスを展開している事業所の運営状況と整備計画を踏まえ、以下の6項目を事業計画に掲げて重点的に取り組みました。

令和3年度事業計画重点項目

- 1. 在宅復帰・超強化型の算定維持、その他の専門的加算の充実
- 2. 居宅介護支援センターの整備、ケアマネ等の専門職の確保・育成
- 3. ナースコールシステムの活用とリスクマネジメント
- 4. 職員研修(OJT、Off-JT)の充実、職員間の情報共有
- 5. 環境にやさしい介護施設の整備
- 6. ご利用者の障害や状態に対応し、安全・安心でかつ楽しい食事の提供
- 1. 在宅復帰・超強化型の算定、その他の加算獲得と維持

平成30年度に施行された介護報酬改定で、老健の在宅復帰・在宅生活維持支援の役割が明確となり、5段階(超強化型・在宅強化型・加算型・基本型・その他型)に類型化されました。当施設は、改定前より在宅復帰と在宅支援に積極的に取り組んでおり、新設された超強化型加算の算定と維持を目標に、平成30年6月から超強化型加算を開始し、以後途切れることなく現在まで超強化型加算算定を維持することができました。

また、在宅復帰・在宅生活支援のため、多様な在宅系サービスを切れ目なく提供できるよう多職種協働による退所前カンファレンス、入所前後訪問、退所前後訪問などを行いました。ご家族とも情報交換、情報の共有化を図り、退所後も通所リハビリ、訪問リハビリ、短期入所等を効果的にご利用いただくことにより、在宅生活が長く続けられるよう取り組んできました。

2. 居宅介護支援センターの整備、各専門職の確保と人材育成、研修活動

「入院から在宅への流れ」に対応し、令和元年度から居宅介護支援センターはケアマネジャー6名体制を維持し、在宅生活においても訪問リハビリや必要に応じて短期入所の利用を進めてきました。

令和3年度は介護職員、リハビリ職員、調理職員を新規採用するなど人員を確保すること ができました。

3. ナースコールシステムの活用とリスクマネジメント

ナースコールと介護記録システム(ちょうじゅ)と連動させ、ナースコールとその対応が「ちょうじゅ」に自動的に記録されるようになりました。また、施設内の監視カメラシステ

ムを使用し、転倒等のリスク回避、事故の分析を行い、有効的に活用することにより事故予防に努めました。感染予防については新型コロナウイルス流行の為、対面面会や訪問診療活動の制限を強いられましたが、タブレット機器等を活用し、オンライン面会やオンライン訪問診療、リモート研修等に有効に活用することができました。

4. 職員研修(OJT、Off-JT)の充実、職員間の情報共有

施設内職員研修会を月1回以上開催し、リスクマネジメント、身体拘束虐待防止、感染対策の法定研修に加え、認知症ケア(ユマニチュード)、アンガーマネジメント、接遇マナーに関する研修を企画、実施し、職員個々のスキルアップに繋げました。また、部署ごとに0JT(On-the-Job Training)プログラムを作成して項目ごとに実践検証を行い、介護、医療の質的向上、人材育成に努めてきました。

施設外研修(Off-JT)については十分な感染対策と感染症の流行状況を踏まえ、ケアマネジャーや介護職員を中心に派遣しました。一方、感染の流行に伴い、リモート研修の機会が増え、移動時間などがなくなり、参加しやすい状況となっています。

5. 環境にやさしい介護施設の整備

「先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業」の検証期間が終了しましたが引き続き、二酸化炭素排出削減を意識すると同時に、職員はゴミの削減を行うなどSDGsに積極的に取り組むことを意識づけしました。

6.ご利用者の障害や状態に対応し、安全・安心でかつ楽しい食事の提供

当施設のご利用者を始め、天橋園(デイサービス、ハウゼ、天橋の家)へ当施設で調理した食事を継続的に提供することができました。ご利用者個々に合った食事の提供ができるよう、職員間で情報を共有すると共に安全・安心かつバランスの取れたメニューを提供しました。

【部署別事業報告】

(1) 支援相談室

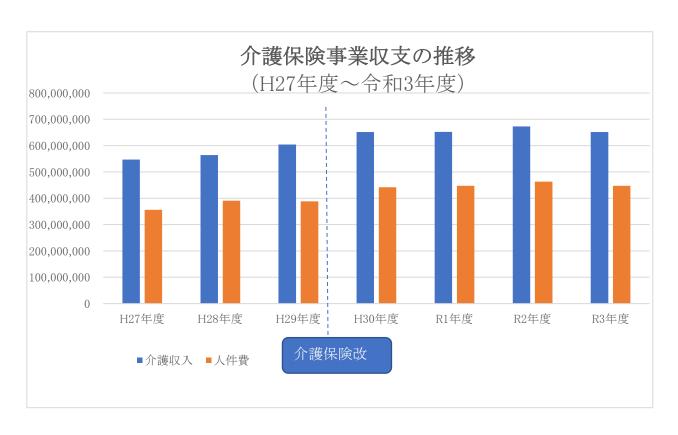
平成30年6月から算定を開始した「超強化型加算」を令和3年度も継続することができました。

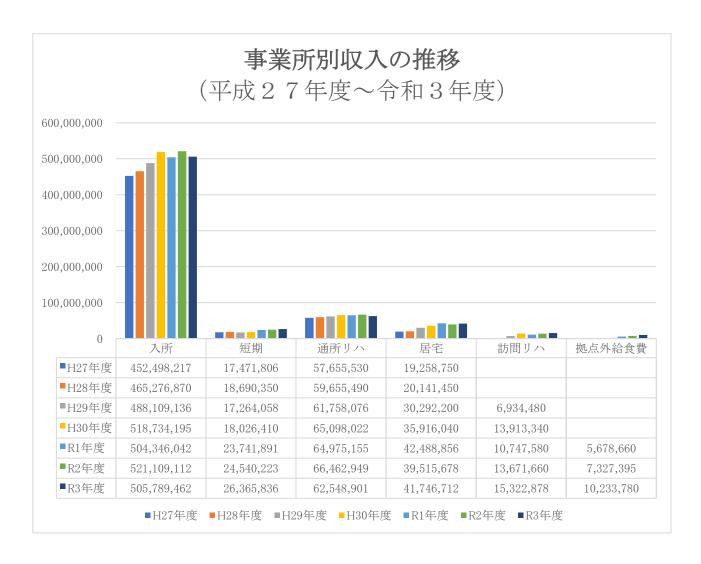
支援相談室が中心となり算定要件である「在宅復帰率」「回転率」「入退所前後訪問数」に加えて「入所稼働率」を小まめに把握し、毎月の業務運営会議などを通して各部署主任を中心に情報共有を行いました。その中で、ご利用者が特養へ入所されるケースが増えたことや転倒や体調不良による医療機関への入院により、在宅復帰率、稼働率、入所前訪問等に大きな影響を与えました。

また令和 3 年度も新型コロナウイルス流行により、面会制限、行事の自粛など様々な対策、制限を強いられました。ご家族の面会については、できる限り対面面会が行えるようにと考え、感染症予防対策委員会を中心に近隣地域の感染状況の確認、情報交換を行い、短時間、少人数等の条件を設け、感染予防対策を十分に講じたうえで対面面会を実施しました。コロナ禍の中、ICTを活用し、施設へ来苑、または自宅からできるオンライン面会システムの導入、なぎさ苑だよりの発行や HP の随時更新により、ご家族に少しでもご利用者の様子をお伝えできるよう、努めました。

その他、可能な範囲で例年同様、地域貢献活動として、吉津公民館にて「須津なぎさカフェ」を開催しました。また、吉津小学校3年生を対象とした「認知症サポーター養成講座」も開催を予定しておりましたが、警報発令に伴い中止となり、その代替えとして小学生向け介護福祉リーフレットを作成し、配布しました。

後進の育成として龍谷大学短期大学の学生を社会福祉士施設実習生として受入れ、学生に指導すると同時に職員自身のスキルアップにも繋げることができました。





◎長期入所 療養介護状況

	入所稼働率	大 少海 [[ベッド	重度化割合	入所前後	退所前後
	(短期入所含)	在宅復帰率	回転率	要介護 4+5	訪問指導	訪問指導
2 年度	96.7%	61.0%	19.0%	28.0%	44.1%	44. 1%
3 年度	94.8%	57.3%	17.4%	31.5%	40.3%	36.8%

退所者状況 (延人数)

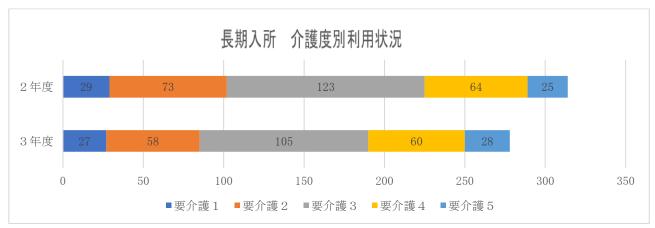
	在宅	在宅系施設	介護老人 福祉施設	他の老健	入院	死亡	その他	合 計
2 年度	105 人	12 人	45 人	0人	25 人	11 人	6人	204 人
3 年度	99 人	3 人	47 人	4 人	23 人	12 人	2 人	190 人

年齢・性別 入所者数(延人数)

	65 歳未満	65~69	70~79	80~89	90~99	100 以上	合計
2 年度	6人	6 人	29 人	122 人	113 人	13 人	289 人
3 年度	3 人	4 人	20 人	119 人	121 人	11 人	278 人

介護度別 入所者数·平均介護度(延人数)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均介護度
2年度	29 人	73 人	123 人	64 人	25 人	314 人	3.0
3 年度	27 人	58 人	105 人	60 人	28 人	278 人	3. 0



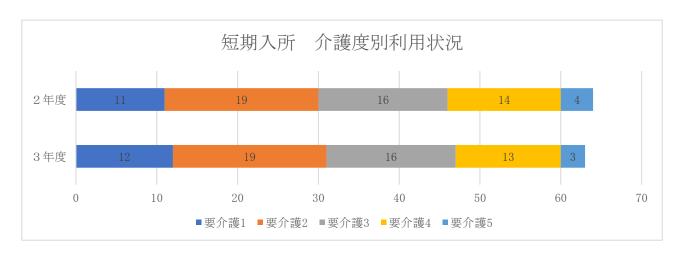
地区別入所者数 (延人数)

	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
2 年度	153 人	116 人	7 人	13 人	289 人
3 年度	146 人	109 人	8人	15 人	278 人

◎短期入所 療養介護状況

介護度別 ・平均介護度(延人数)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	平均 介護度
2 年度	11 人	19 人	16 人	14 人	4 人	64 人	3. 0
3 年度	12 人	19 人	16 人	13 人	3 人	63 人	2.6



要支援 入所状况(延人数)

	要支援1	要支援 2	合 計
2 年度	0人	0 人	0人
3 年度	0人	0人	0人

地区别 入所状况(延人数)

	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
2 年度	49 人	15 人	0人	0人
3 年度	46 人	15 人	1人	1人

新規契約者 (延人数)

	新規入所者
2 年度	34 人
3 年度	44 人

(2) 介護部門

(一般療養棟)

昨年に引き続きコロナ禍での令和3年度は、昨年同様感染対策を重視し、「感染しない、 持ち込まない」を最優先しての1年でした。

ご利用者の余暇活動については、なかなか力を注ぐことが出来ず、ご利用者の生活の質の向上につながらなかったという現状に、職員が自発的にレクリエーション委員を立ち上げ活動を起こしています。その点については令和4年度に期待をしていきたいと考えています。

令和3年度、外部研修への参加機会が少なく、研修参加者からフロア全体へのフィード バックが少ない年となりました。令和4年度は積極的に研修参加することで新しい学びを 得たいと考えています。

リスク管理については、令和2年度、同様、入所時にご家族に対して丁寧な説明を行い、 理解を得て、備品の適材適所配置に努め居室環境を整えましたが、令和3年度も数件の骨 折事故があり不十分な点もありました。ご利用者情報の把握に努め、他部署との連携を密 にしさらに先を見据えた環境整備の必要性を感じています。

新人職員の育成に力をいれ、業務改善についても自身の考えを発信できる職員が増えつ つある状況です。

令和4年度も引き続き、人材(新人)育成・業務改善に力を注ぎ、LIFEの活用、科学的介護の担い手としてご利用者の快適な暮らしの場の提供に努めていきます。

(認知症専門棟)

新型コロナウイルス感染拡大防止に関してはオンライン面会を活用し、面会していただくことでご利用者、ご家族が顔を見て頂く事が出来き、安心感や逢える喜びを感じていただけたと思います。

感染症についてはご利用者、職員共にワクチン接種3回実施し、職員は毎日の検温、マスクの着用、手洗い、消毒の徹底、不要不急の外出を控える、本人、家族の熱発や体調不良時には出勤を止める等の対策を行い、周辺地域や施設でコロナウイルスの感染があるものの当施設では感染が見られませんでした。しかし、11月に1名のご利用者から疥癬が見つかり、その後、疑いを含めご利用者約10数名、職員も2名確認され、再度対応の見直しや、清掃の徹底を行いました。

リスク管理については、センサーの見直しや、ワンダーマット、超低床ベッドの環境整備、ご家族にリスク説明を行い、ヒッププロテクターの購入を進めてきましたが、要介護2、3の一人で歩行されるご利用者が増え、転倒事故が月平均にして10件以上となり、年度末にはヒッププロテクターを着用されてないご利用者の骨折事故も連続して起きてしまいました。

介護報酬の改定に伴い LIFE 導入から活用まで出来る様になり、科学的介護の実践が少しずつではありますが可能となってきました。

職員については昨年に引き続き、人材確保が大きな課題となっており、業務負担は増え、 人材育成や研修についても昨年と同様に積極的に行えない状況でした。

令和4年度については、人材確保を行いながら、ご利用者に対してゆとりのある安心、安全なケアの実践が行えるよう、認知症理解や多職種連携を密に行い、LIFEの活用、各加

算を意識し、超強化型を維持していけるよう、個別ケア、在宅復帰に向け科学的介護の実践に努めます。

(3) 看護部門

令和3年度は引き続き新型コロナウイルス対策を軸に業務を展開しました。5月より開始となったワクチン接種では、接種計画の策定、ワクチンの取扱手順、副反応への対応訓練等を行い、安全、円滑な接種の実施に取り組みました。全職員と全入所者の接種を計画通り実施しました。

また職員本人やその家族に陽性者、濃厚接触事例が発生した場合は速やかに情報共有を行い、勤務管理、PCR 検査、抗原検査を実施し、施設内への持ち込みを防止する事ができました。

11月には疥癬患者の発生を認め、皮膚科医との連携のもと対策を講じ、蔓延防止に努めました。

教育関連では 0JT として感染対策予防委員会を軸に、施設内研修として個人防護具の着脱訓練を実施し技術向上に取り組みました。また、0ff-JT プログラムとして 10 名が看護協会主催の実践能力向上研修会を受講し、知識技術の研鑽に取り組みました。府立看護学校の実習生の受け入れも体調管理に細心の注意を払いながら継続しました。21 名の学生が実習を修了しました。

本年度より褥瘡委員会と排泄委員会を統合し、皮膚排泄ケア委員会として皮膚全般の課題に取り組む体制へと組織編成を行いました。また、新たに始まった LIFE へのデータ提出にも取り組み、ケアの質の向上に取り組みました。令和3年度の褥瘡発生件数は8件(前年度22件)と大幅に減少しました。

認知症ケアについては近年、BPSDに関連した転倒、外傷事故が発生している現状を踏まえ、転倒対策のワーキンググループ(WG)を立ち上げ、認知症専門棟共有スペースにご利用者が寛げるスペースの整備を行いました。また、看護師1名が看護協会の実践能力向上研修(認知症高齢者の看護実践に必要な知識)を受講、施設内研修としてユマニチュードをテーマに実施し、ソフト・ハードの側面から取り組みました。

看取りについては初期の段階でご家族との I C (Informed Concent) の開催、必要に応じて他科受診を行い、病状の理解、受容へと繋がるようご家族への支援に努めました。 コロナ禍における面会制限がある中でも、柔軟に対応しご家族が面会できる時間に配慮しました。

褥瘡マネジメント加算、排泄支援加算の算定状況

褥瘡マネジメント加算	排泄支援加算		
2 年度 164 件	2 年度 424 件		
3 年度 1112 件	3 年度 1135 件		

令和3年度の看取り件数

施設内死亡件数	看取り対応件数		
2 年度 7 件	2 年度 5 件		
3 年度 12 件	3 年度 9 件		

(4) 通所リハビリテーション

令和3年度は、LIFEの開始に伴い、自立支援・重度化防止の取り組みの推進として、多職種で連携し取り組み、加算取得が継続できるよう努めました。またコロナウイルス感染予防対策を継続し、1人も感染者を出すことなくサービスを提供することができました。

リハビリ職員が1名配置されている事で、リハビリ提供体制加算4・入浴加算Ⅱ・リハマネ加算・認知症短期集中リハ加算・科学的介護推進体制加算を算定し、リハビリ会議の準備・進行、通所リハ計画書の作成等、安定した加算取得ができました。

利用状況について体調不良者や長期入院となる方、施設へ入所される方等があり、安定したご利用者の確保が難しく、利用率に影響を与えました。

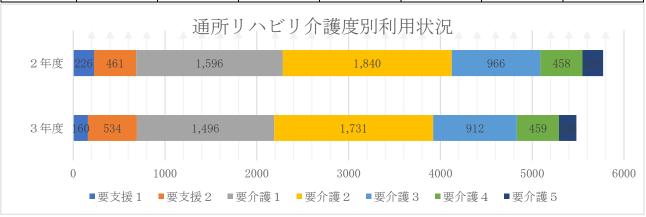
ご利用者が安心して在宅生活が送れるように、送迎時や利用中の様子を居宅支援事業所や他サービス事業所等に報告し、各関係機関と情報の共有を図り、密に連携を取り合えるような関係づくりに努めました。

平均利用者数・利用率: (要支援含む)

	利用定員	営業 日数	延利用者数	平均利用者数	利用率
2 年度	27 人	259 日	5,772 人	22.2 人	82.5%
3 年度	27 人	260 日	5,482 人	21.0人	78.1%

介護度別利用状況・平均要介護度(介護給付事業)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均 要介護度
2年度	1,596 人	1,840人	966 人	458 人	225 人	5,085 人	2. 2
3年度	1,496 人	1,731 人	912 人	459 人	190 人	4,788 人	2.2



介護度別利用状況(介護予防事業)

	要支援 1	要支援 2	介護予防計
2年度	226 人	461 人	687 人
3年度	160 人	534 人	694 人

認知症短期集中個別リハ加算

(240 単位)	延人数
2 年度	256
3 年度	272

リハビリマネジメント加算A(ロ)

	延人数
3年度	109

選択的サービス複数実施加算 I (介護予防)

	延人数
3 年度	103

(5)機能訓練室(リハビリセラピスト<OT, ST, PT>)

令和2年度に引き続き、超強化型維持のため入所ご利用者全員に週3回以上の個別リハビリ介入を行いました。短期集中・認知症短期集中リハビリテーション加算の算定に関しては、セラピストの移動や退職、新型コロナウイルスの影響により前年度に比較して減少傾向となりました。今後は長期的に安定したリハビリ介入が行えるように、業務の見直しを図ります。

また OT・ST・PT が、それぞれの専門性を発揮できるような職場環境の構築を目指します。今後も利用者の在宅復帰を支援できるように努めます。

入所部門

	短期集中	認知症短期集中	短期入所	経口維持I	経口維持Ⅱ	個別リハ
	(240 単位)	(240 単位)	個別(240 単位)	(100 単位)	(400 単位)	(0 単位)
2 年度	7, 100	4, 311	544	253	253	9, 486
3 年度	6, 039	3, 525	582	241	241	9, 820

(6) 訪問リハビリ

令和3年度より、移行支援加算の算定が可能となりました。また11月より専従0T・PT、2名に加え、入所兼務ST・PT、2名を含めた4名体制となりました。それにより専門性の高いリハビリ介入が、より多くの新規ご利用者に提供できるようになりました。今後も感染症対策に留意しながら、利用者のニーズに沿ったリハビリテーションが提供できるよう努めます。

	実施単位数	リハマネ加算	短期集中リハ加算	サービス提供体制加算	移行支援加算
	(307 単位)	(213 単位)	(200 単位)	(6 単位/回)	(17 単位/日)
2 年度	4, 166	321	65	3, 512	
3 年度	4, 661	75	21	4, 642	1, 460

^{*}移行支援加算はR3年度より算定

(7) 給食部門

ご利用者の状態に合わせた食事形態、療養食 (糖尿病食、塩分制限)、看取り期のご利用者に寄り添った食事、栄養提供に取り組みました。嚥下困難者に対応した食事形態 (やわらか食、ソフト食、ミキサー食)の安定した提供に努めました。定期的に栄養マネジメント委員会や食事観察会議に参加して摂取状況を把握、フロアのケアカンファにも出席して栄養面の提案をしてきました。また、ご利用者に合わせた個別対応、看取りなど、多職種と連携し体調によっての食事の提供にも協力しました。

令和3年度は、前年度同様に食の充実を図るために取り組ました。食形態充実やわらか食の対応、天橋園(デイサービス、ハウゼ、天橋の家)へ食事提供の対応や HAC CP(蜀の安全性を確保するための衛生管理手法)の取り組みにあわせ管理栄養士や調理員の連携により、温度、機器管理や記録作成、ガイドラインの見直しを実施、作業面の改善を図りました。

(8) 医務室(診察室、薬局、医師、歯科衛生士、薬剤師、看護師)

医師の指導の下、看護師、歯科衛生士、薬剤師が中心となって、医薬品や検査キット、 医療器材等の整備を通して、診察室と薬局の管理と整備に取り組みました。

医師と薬剤師は、同種同効薬の見直し、ジェネリック医薬品の採用を含め在庫医薬品の 見直しを行い、医薬品費のコストダウンを行ってきました。また、ご利用者に多くみられ る多剤処方(重複処方やポリファーマシー)を見直し、減薬に努めてきました。

入所時リスク説明書、病状説明書、看取り同意書<人生の最終段階における医療・介護にかかわる同意書>などを準備、活用することで、家族への説明と同意(IC)を多職種協働で行うように対応し、ご利用者のファイルのトップにいれることで、急変時や看取りケアの徹底に活用してきました。

コロナウイルス感染症の感染拡大に対応するため、発熱などの症状のある方には抗原検査を使用し、感染予防対策を行いました。

インフルエンザ対策としては、入所、通所のご利用者へインフルエンザワクチン接種を 実施するとともに、職員には無料でワクチン接種するばかりでなく、家族がインフルエン ザに罹患した場合にも潜伏期間、職員に自宅待機を命ずるなど対策を強化してきました。 歯科衛生士は、入所ご利用者の口腔衛生のチェックを行い、口腔衛生加算を取得すると ともに、通所ご利用者にも対象を広げ、加算取得を行ないました。介護、看護スタッフへ の指導を行い、口腔衛生管理に取り組み、加算を取得しました。

	口腔衛生管理	口腔衛生	所定疾患	緊急時治療加算
	体制加算	管理加算 施設療養費		采 忌时信 原加昇
2 年度	1,273 件	1,151件	109 件	0 件
3 年度		1,116件	168 件	0 件

(9) 事務室(施設管理部門)

平成27年度以後、介護保険事業収入は増加していますが、増収額の多くは入所(長期)が占めているのが現状となっています。各サービスの更なる連携強化に加え、すべての職種が共同して老健の役割である在宅復帰と在宅生活支援を意識し、業務を行なっていく必要があります。また職種によっては一部、高齢化が見られ、中期・長期的な点からも人材確保、育成は重要課題と意識し、本部とも連携を図り、取り組んでいます。

(10) 居宅介護支援事業所

高齢者が地域の中で自分らしく日常生活を営むことができるように、相談援助やサービス調整を行いました。

令和3年度も6人体制を維持し、ご利用者本位の適切なケアプラン作成に努めることができました。宮津市(栗田から里波見まで)や、与謝野町岩滝地区を中心に、積極的に新規受け入れを行い件数維持に努めました。

医療連携については、主治医や関係機関との連携を密にし、利用者がスムーズに在宅 生活を送る事ができるように支援していきました。また、対応困難事例も増える中、地 域包括支援センターと連携を行いました。 令和3年度についてはコロナ禍により、退院退所加算を算定する要件を満たす機会が減り、13回(必要要件35回)のみの算定となり、ターミナルケアマネジメント加算も3件(必要要件は5件)、令和4年度4月からは特定事業所加算IIに、医療介護連携加算を算定することができなくなります。引き続き特定事業所加算IIの算定に加えて、医療介護連携加算再開に向けて努力を継続していきます。

令和3年度はコロナ禍のため各種研修が中止や延期となりましたが、リモート等を活用し介護支援専門員研究会や地域ケア会議での意見交換や研修に参加し、多職種と交流する機会を持ち、法人内部での定例会議や事例検討を感染予防に努めながら開催し、ケアマネジャーとしての資質向上に努めました。

令和4年度もご利用者やご家族に対して常に笑顔を大切に、傾聴の姿勢を持ち、住み 慣れた地域で、笑顔で過ごして頂けるよう努めていきます。

相談件数

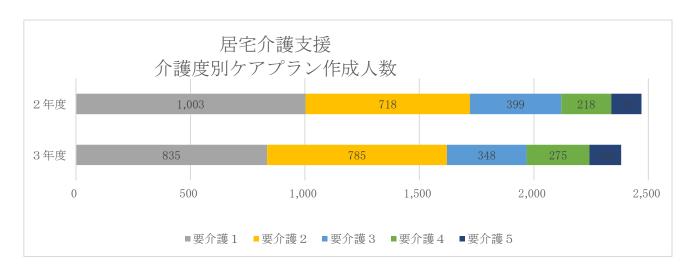
		介護保険 その他福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待
2 年度	実数	267 件	10 件	2件
2 平度	延数	25,805 件	24 件	35 件
3 年度	実数	285 件	11 件	10 件
3 平度	延数	30,444 件	35 件	52 件

ケアプラン作成管理件数

	延べ人数	実件数
2 年度	2,470件	267 件
3 年度	2, 381 件	285 件

介護度別プラン作成延べ人数

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
2 年度	1,003 人	718 人	399 人	218 人	132 人	2,470 人
3 年度	835 人	785 人	348 人	275 人	138 人	2,381 人



(地域事業・総合事業)

	内	容	参加者数
はしだて清掃一人一坪大作戦			6人
宮津天橋高校探求授業受入			2 人
	合	計	8人

(実習生等受け入れ状況)

月	受入事業所等	実習内容	受入実人数
2月~10月	京都府立看護学校	看護学生施設実習	23 人
8月	龍谷大学短期大学部	社会福祉士実習	2 人
		合 計	25 人

【研修等参加状況】

(施設外研修) (WEB 研修)

研 修 内 容	参加者数	研 修 内 容	参加者数
宮津市ワクチン接種別会	2	丹後圏或地域リハビリテーション事例検討会 (ZOOM 研修)	2
京都府PCR実施所修	2	京都所認知症介護実践者等養成所修(リーダー研修)	3
宮津市介護支援専門員研究会	5	介護支援専門員実務経験者更新研修(課程II) オンライン	1
認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー養成講座(MB研修)	1	指定施設における不在者投票事務説明会	3
宮津市地域ケア会議(ZOOM会議)	4	令和3年度医療と介護の連携能断形会	3
就職フェアについて (MCA 国際副山界学校)	1	福山戦力人材養成科 (丹後) 合同事業別説明会	1
福山則此行講師養成所修	3	高齢者福山施設職員へのリーダー看護所等養成所修	1
居宅介護支援事業所におけるケアマネジメント機能向上に資するのJT・事例検討会実践に生かす手引き ZOOMを活用した管理者研修	1	実践能力向上研修(高齢者施設の看取りケア)	1
府老協リハビリ部会第4ブロック交流会(WEB会議)	2	新たなケアプラン標準まれの活用法や報酬改定の疑問 点等を学べる (200M 研修)	3
認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー 育成事業 (MEB 研修)	1	府老協栄養部会	1
府老協施設ケアマネ部会第4ブロック交流会(MB 会議)	1	令和3年度若年性認知症支援所修会	1
自分も周りも元気になる職場つくり(MEB研修)	2	府老協施設ケアマネ部会	2
組織で取り組む感染対策と危機管理 (MB 研修)	1	共済会長期在会表彰式典	4
府老協支援由談員部会	1	看護職・介護職リハビリテ―ションステップアップ研修会	1
福祉職場上職力向上セミナー	1	社会福止生実習指導者講習会	1
福組職力人材養成科実習指導者研修	1	令和3年度京都府乱間リハビリテーション事業元連絡会	2
京都府認知定介護実践者等養成研修(介護実践者)	4	令和3年度第3回支援制設員部会 第4ブロック会	2
第 29 回丹後圏域地域リハビリテーションセラピスト 連絡会	1	介護労働者雇用管理責任者講習	1

人が辞めない 職場をつくる3つの施策セミナー	3	クリニカルラクダー導入の経緯と現状の課題 WEB 研修	2
京都老健協 看護介護部会 第2回ブロック長会議 (ZOOM 研修)	1		

(施設内委員会・会議等開催状況)

会 議 名	開催回数
業務運営会議	12
入所検討会議	49
2階・3階ステーション、デイケア、リハビリ	48
看護・介護主任会議	12
ユニット会議・ユニットリーダー会議	96
部署別会議	12
感染症予防委員会 (臨時会議含む)	14
身体拘束虐待防止委員会	12
リスクマネジメント委員会	12
職員研修委員会	12
苦情解決委員会	2
サービス向上委員会	12
情報ネットワーク委員会	12
栄養マネジメント委員会	12
衛生委員会	12
認知症ケア委員会	12
広報WG会議	12
皮膚排せつケア委員会	12
北星会施設長会議	24

(施設内研修)

月日	タイトル	参加者数	担当
6月 9日・10日・17日	令和2年度の振り返りと令和3年度の目標	83 人	施設長
6月29日	LIFE に関する研修	47 人	職員研修委員会
7月27日	不適切ケアについて	17 人	身体拘束虐待防止委員会
8月24日	アンガーマネジメントについて	25 人	リスクマネジメント委員会
9月14日	メンタルヘルスについて	21 人	衛生委員会

9月21日	個人防護具の着脱方法・取り扱いについて	22 人	感染症予防対策委員会
10月26日	LIFE で進む褥瘡管理	25 人	皮膚排泄委員会
11月12日	事故発生又は再発防止に関する研修	2 人	法人研修 外部講師 (リブドゥ)
11月30日	ユマニチュードについて	20 人	認知症ケア委員会
12月10日	身体拘束排除のための取り組み	4人	法人研修 外部講師 (リブドゥ)
12月21日	接遇マナーについて	15 人	リスクマネジメント委員会
1月25日	新型コロナワクチン3回目について (ブスター接種)の意義	24 人	施設長
2月8日	感染対策の新時代 今後施設が目指すべき目標とは (オンデマンド研修)	15 人	サラヤ株式会社
3月8日	自分にも相手にも優しくなれる企業に 必要なコミュニケーション講座	12 人	株式会社ドクタートラスト
3月22日	年度末活動報告会 (事例検討/リハビリ・2F・3F)	39 人	職員研修委員会

施設•事業所別 職員数一覧

令和4年3月31日現在

事業名 北星会 法人本部

		事務局長	事務局次長	事務員	相談員	介護支援専門	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	のびのび	その他		合計
実	常勤職員	1	1	6										8
人 数 ———————————————————————————————————	非常勤 職員										6	1		7
	換算による 人数	1.0	1.0	6.0							1.2	0.1		9.3

施設•事業所別 職員数一覧

令和4年3月31日現在

天橋園拠点

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	介護補助		合計
実	常勤職員	1		2	6	24	3						36
数	非常勤職員					24	2			2	1		29
常勤技	奥算による人数	1.0		2.0	6.0	31.8	3.4			1.1	0.8		46.1

事業所名 天橋園通所介護事業所

(利用定員 25 名) 介護予防・総合事業も含む・日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	その他	介護補助			合計
実	常勤職員	1		1		5	2					9
数	非常勤職員					2	1	1	1			5
常勤	換算による人数	0.3		1.0		5.9	2.1	0.8	0.8			10.9

[※]介護予防・総合事業との兼務も含める。

事業所名 ハウゼ天橋通所介護事業所 認知症対応型通所介護

(利用定員 12名) 介護予防含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	その他				合計
実	常勤職員	1		1		2	1					5
数	非常勤職員					2	1	1				4
常勤	換算による人数	0.2		1.0		3.1	1.3	0.3				5.9

[※]介護予防・総合事業との兼務も含める。

事業所名 天橋訪問介護事業所

介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門	介護員	看護員	調理員				合計
実	常勤職員	1				6						7
数	非常勤職員					18						18
常勤技	換算による人数	0.2				11.4						11.6

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

事業所名 グループホーム天橋の家

(利用定員 18名)

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員				合計
実	常勤職員	1			1	11						13
数	非常勤職員					2						2
常勤技	換算による人数	0.3			1.0	11.4						12.7

事業所名 天橋園居宅介護支援事業所

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門	介護員	看護員	調理員				合計
実	常勤職員				5							5
数	非常勤職員											0
常勤	奥算による人数				5.0							5.0

※1名は管理者と兼務

施設•事業所別 職員数一覧

令和4年3月31日現在

与謝の園拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医	運転手	介護補助	合計
実	常勤職員	1	3	3	5	43	6	1	4					66
数	非常勤職員					17	3		5	2	1	1	1	30
常勤技	奥算による人数	1.0	3.0	3.0	5.0	50.8	6.7	1.0	7.0	1.3	0.1	0.4	0.5	79.8

施設名 特別養護老人ホーム 与謝の園

(利用定員 長期 80名・短期 10名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医	介護補助		合計
実	常勤職員	1	3	2	1	34	5	1	4					51
数	非常勤職員					9	2		4	2	1	1		19
常勤拮	・ 奥算による人数	0.5	3.0	2.0	1.0	39.8	6.2	1.0	6.5	1.3	0.1	0.5		61.9

事業所名 与謝の園通所介護事業所

(利用定員 24名) 介護予防・総合事業も含む・日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	運転手			合計
実	常勤職員	1		1		3						5
数	非常勤職員					5	1	1	1			8
常勤技	奥算による人数	0.2		1.0		6.0	0.3	0.5	0.4			8.4

事業所名 与謝の園訪問介護事業所 介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員				合計
実	常勤職員	1				4						5
数	非常勤職員					2						2
常勤技	奥算による人数	0.2				4.7						4.9

[※]介護予防・総合事業との兼務は含める。

事業所名 与謝の園訪問入浴介護事業所 介護予防も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員				合計
実	常勤職員	1				2	1					4
数	非常勤職員					1						1
常勤技	奥算による人数	0.1				0.3	0.1					0.5

[※]介護予防との兼務は含める。

事業所名 与謝の園居宅介護支援事業所

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員				合計
実	常勤職員				4							4
数	非常勤職員											0
常勤拮	奥算による人数				4.0							4.0

※1名は管理者と兼務

施設•事業所別 職員数一覧

令和4年3月31日現在

天橋の郷・Re-Style・はまなす苑拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	言語聴覚士	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医	合計
実	常勤職員	1	3	5	1	60	6	1	1	9					88
数	非常勤職員					12	3			2	5	1	2	1	26
常勤挑	奥算による人数	1.0	3.0	5.0	1.0	67.2	8.2	1.0	1.0	10.3	1.6	0.8	0.6	0.1	100.8

施設名 特別養護老人ホーム 天橋の郷

(利用定員 長期 70名・短期 20名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医	合計
実	常勤職員	1	3	2	1	46	3	1	8					65
数	非常勤職員					9	2		2	4	1	1	1	20
常勤挑	奥算による人数	0.7	3.0	2.0	1.0	51.1	4.4	1.0	9.3	1.1	0.8	0.4	0.1	74.9

[※]介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 天橋の郷通所介護事業所

(利用定員 35 名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	介護補助	言語聴覚士			合計
実	常勤職員	1		1		8	1	1		1			13
数	非常勤職員					2	1						3
常勤拮	奥算による人数	0.3		1.0		9.6	1.8	1.0		1.0			14.7

[※]介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 Re-Style 通所介護事業所

(利用定員 15名/午前、15名/午後) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日 は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	運転手				合計
実	常勤職員			1		3	1					5
数	非常勤職員							1				1
常勤拮	換算による人数			1.0		3.0	1.0	0.2				5.2

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 はまなす苑通所介護事業所

(利用定員 20名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	介護補助				合計
実	常勤職員			1		3	1					5
数	非常勤職員					1		1				2
常勤挑	常勤換算による人数			1.0		3.5	1.0	0.5				6.0

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

※生活相談員1名は管理者と兼務

施設•事業所別 職員数一覧

令和4年3月31日現在

なぎさ苑拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員•運転手	薬剤師	合計
実	常勤職員	1	3	4	6	39	11	5	3	1	1	2	8				84
数	非常勤職員					8	2	1		1	1		5	3	2	1	24
常勤技	換算による人数	1.0	3.0	4.0	6.0	43.8	12.9	5.7	2.0	1.4	1.1	1.0	10.5	1.2	1.2	0.4	95.2

施設名 介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑

(利用定員 長期 100名・短期 空床利用型)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員	薬剤師	合計
実	常勤職員	1	3	4		35	11	5	3	1	1	2	8				74
数	非常勤職員					6	3	1		1	1		5	3	1	1	22
常勤技	常勤換算による人数		3.0	4.0		38.3	12.1	4.2	1.8	1.0	1.0	0.9	10.5	1.2	0.8	0.4	80.0

[※]施設長は医師。※相談員と介護支援専門員は兼務。

事業所名 なぎさ苑通所リハビリ事業所

(利用定員 27名) 介護予防も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	運転手		合計
実	常勤職員	1				4	0	5	3	1	1	1				16
数	非常勤職員					2	2	1						1		6
常勤	換算による人数	0.1				5.5	0.8	1.0	0.0	0.2	0.1	0.1		0.4		8.2

[※]介護予防との兼務を含む。

事業所名 なぎさ苑 訪問リハビリ 介護予防も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員		合計
実	常勤職員	1						5	3						9
数	非常勤職員							1		1					2
常勤	換算による人数	0.1						0.5	0.2	0.2					1.0

[※]介護予防との兼務を含む。

事業所名 なぎさ苑居宅介護支援事業所

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員					合計
実	常勤職員				6								6
実 人 数	非常勤職員												0
常勤	換算による人数				6.0								6.0

^{※1}名は管理者と兼務

用語解説

※バーサルインデックス(BI)とは

ADL維持加算を算定するために、利用者の日常生活動作(ADL)を主観でなく数値で評価する方法で、全10項目より構成されています。

※ADL(日常生活動作)とは

日常生活動作(ADL)は、高齢者・障がい者が、日常生活上の動作をどの程度行えるのかを示す指標です。すなわち日常生活動作(ADL)が高いほど、自立した生活が可能です。反対に日常生活動作(ADL)が低い方は、日常生活全般にわたって手厚い介護が必要です。

※LIFE(ライフ)とは

LIFE(科学的介護情報システム)とは、介護サービスやケアの質の向上を目的として、2021年4月から厚労省が新たなデータベースを構築しており、このデータベースは 科学的介護システム「LIFE」 と呼ばれます。

※ユマニチュードとは

ユマニチュードはフランス発祥のケア技法で、特に認知症の方に効果的だと注目 されています。ユマニチュードは基本的な技術である「4 つの柱」と、ケアの順番を 示す「5 つのステップ」で構成される技法です。

4 つの柱:「見る」「話す」「触れる」「立つ」

5 つのステップ:「出会いの準備」「ケアの準備」「知覚の連結」「感情の固定」「再会の約束」

※プリセプターとは

先輩であるベテラン職員がプリセプターとなり、見習いの新人職員(プリセプティー)をマンツーマンで指導する新人研修制度をプリセプター制度といいます。

ЖО Ј Т

0JTとは「On the Job Training」の略語です。新人や業務未経験者に必要なスキルや知識を、上司や先輩などのトレーナー(0JT 担当者)が実務を通じて指導していく教育方法です。

XOFF-JT

0FF-JT は「Off The Job Training」の略称で、職場外研修と訳されます。職場外研修とは、現場から離れて行われる研修やセミナーのことを指し、社内の人材開発担当の部署や外部講師が作成した内容の教育を受け、業務に必要な知識やスキルを習得することを目的とした教育のことです。

※放課後児童クラブ

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に小学校の余裕教室や児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図るものです。